

〈2026年度〉

授業要項

科目	生物	学科名	柔道整復	履修年次	1年次
		教授法	講義	単位数コマ	5単位(38コマ)
教員	小林 恒之	領域	基礎	実務経験	有
教科書	志村、岡、山田編 栄養科学イラストレイテッド演習版 解剖生理学ノート 第3版 羊土社				
参考書	柔整、はりきゅうでの生理学、解剖学の教科書、堺著「目で見るとからだのメカニズム」第2版 医学書院				
成績評価	期末試験および小テスト				
評価基準	学則に準じる。				
到達目標	解剖学、生理学の基礎重点事項を身につける。				
留意点	解剖学、生理学を単なる丸暗記科目と誤解しないように。				
授業外に必要な学習内容	授業の内容を柔整およびはりきゅうの正規教科書で復習することが重要である。また、講義の最後に基礎事項の小テストを繰り返し頻繁に行うので、そのための自宅学習が求められる。				
授業内容	大学医学部および医療技術学部での実務・教育経験を踏まえ、解剖学と生理学の基礎重点事項について講義する。解剖学と生理学は医学、医療を学ぶ上で極めて重要な基礎科目であるが、学生にとって苦手科目である。この講義では解剖学と生理学の基礎事項を解説していく。必要があれば中学高校の生物、化学、物理の復習を行いつつ、解剖学と生理学を関連づけながら講義を行う。				

授業内容

日程	内 容	使用機材等
1	基礎化学	
2	代謝、ATP、体液	
3	細胞の構造と機能（核、DNA、小胞体等）	
4	細胞の構造と機能（細胞骨格、生体膜）	
5	拡散、浸透、ろ過	
6	能動輸送、受動輸送	
7	様々な組織（上皮組織、結合組織、筋組織、神経組織）	
8	内分泌（内分泌の一般的性質と解剖）	
9	内分泌（視床下部、下垂体等）	
10	内分泌（甲状腺、膵、腎等）	
11	神経系（序論、脊髄）	
12	神経系（末梢神経）	
13	神経系（中枢神経）	

14	神経系（脳幹、小脳）	
15	神経系（終脳、視床、視床下部）	
16	神経系（大脳基底核、辺縁系）	
17	神経系（大脳皮質、血管系）	
18	神経系（ニューロンの形態と機能）	
19	神経系（静止電位と活動電位）	
20	神経系（伝導と伝達）	
21	感覚系（序論）	
22	感覚系（視覚の解剖と機能）	
23	感覚系（味覚、嗅覚の解剖と機能）	
24	感覚系（聴覚、体性感覚の解剖と機能）	
25	骨格系と筋肉系の解剖	
26	筋（骨格筋、心筋、平滑筋）	
27	筋（神経筋接合部、収縮のメカニズム）	
28	筋（筋収縮の性質と代謝）	
29	運動系（脳、脊髄、骨格筋）	
30	運動系（筋紡錘）	
31	運動系（脊髄と反射）	
32	運動系（筋電図と誘発筋電図）	
33	呼吸（呼吸運動）	
34	呼吸（血液ガス、ガス交換）	
35	呼吸（酸素乖離曲線）	
36	体液（組成）	
37	体液（酸・塩基平衡）	
38	まとめ	

〈2026年度〉

授 業 要 項

科 目	研究法概論	学科名	柔整	履修年次	2 年次
		教授法	講義	単位数コマ	5 単位 (38 コマ)
教 員	小林 恒之	領域	基礎	実務経験	有
教科書	特になし				
参考書	特になし				
成績評価	グループワークや個人による授業内での発表、レポート				
評価基準	学則に準じる。				
到達目標	科学的手法を学び、自分の考えを客観的事実に論理的に伝える方法を習得する。				
留意点	実験自習を含むので学生の積極的参加を望む。				
授業外に必要な学習内容	授業時間外での学習は最小限となるよう出来る限り配慮するが、学生自身による論文作成等は授業外の時間に行う場合がある。				
授業内容	大学医学部および医療技術学部での実務・教育経験をふまえて、研究を行う基礎となる文献の検索、読み方、発表方法の習得を指導する。そして、データ解析の基礎(統計法)を学習した上で、実験実習により学生自身がデータを取得しその解析を行う。最後に学生が解析結果をパワーポイントを用いてプレゼンテーションする。				

授 業 内 容

日 程	内 容	使用機材等
1	オリエンテーション	
2	論文の検索の実習	
3	学術論文の構成と学生が選択した論文の内容検討	
4	パソコン実習(ワープロ基礎)	
5	パソコン実習(ワープロ応用)	
6	パソコン実習(パワーポイント基礎)	
7	パソコン実習(パワーポイント応用)	
8	発表準備(スライド作成)	
9	発表準備(スライド作成)	
10	発表準備(作成したスライドのチェック)	
11	発表準備(スライド修正)	
12	発表準備(口頭発表方法の要点説明)	
13	発表準備(口頭発表原稿の作成)	
14	学生による口頭発表と講評①	
15	学生による口頭発表と講評②	
16	統計法① 確率の基礎	

17	統計法② 確率の応用	
18	統計法③ 確率分布、正規分布	
19	統計法④ 平均値、標準偏差	
20	統計法⑤ 仮説の検定(統計検定の論理)	
21	統計法⑥ 仮説の検定(帰無仮説)	
22	統計法⑦ 仮説の検定(平均値の差の検定)	
23	統計法⑧ 相関	
24	統計法⑨ 回帰	
25	研究倫理概説	
26	研究倫理(被験者集めと同署)	
27	実習によるデータ収集①	
28	実習によるデータ収集②	
29	実習によるデータ収集③	
30	実習結果のデータ解析①	
31	実習結果のデータ解析②	
32	実習結果のスライド作成①	
33	実習結果のスライド作成②	
34	予備発表会と講評①	
35	予備発表会と講評②	
36	予備発表の修正作業	
37	本発表会(質疑応答を含む)	
38	まとめ	

〈2026年度〉

授業要項

科目	国語	学科名	柔道整備	履修年次	1 年次
		教授法	講義	単位数コマ	2 単位 (15 コマ)
教員	宮川 厚樹	領域	基礎	実務経験	有
教科書	日本語検定公式テキスト・例題集「日本語」中級・増補改訂版(東京書籍)				
参考書	コミュニケーション図鑑(学研) 常用漢字(第一学習社)				
成績評価	試験(1回/前期)・毎回の演習テスト・提出物・授業態度などを総合的に評価する。				
評価基準	出席時間数の2/3以上の出席と試験60点以上を成績の下限とする。				
到達目標	医療現場で必要となるコミュニケーション能力と論理的思考に基づく読解力・表現力を身につける。				
留意点					
授業外に必要な学習内容	教科書に示されている日本語表現の基礎内容を繰り返し確認しておくこと。				
授業内容	高等学校での国語科教諭としての勤務経験を踏まえ、授業を行う。講義と実践(ロールプレイ)により、理解と確認を繰り返し行う。話し合いを繰り返しソーシャルスキルを学び、良好な人間関係を築くためのコミュニケーション能力を育てる。日本語表現の基礎を学び文章の読解力や表現力の向上を図る。				

授業内容

日程	内 容	使用機材等
1	ガイダンス・コミュニケーションスキルの重要性理解 漢字P64・65・66	教科書 トランプ・アンケート用紙
2	1限目のリフレクション・スタディスキル「自己理解1」 漢字P67・68・69	教科書・演習プリント コミュニケーション図鑑
3	スタディスキル「正しい日本語を使う1敬語」「自己理解2」 漢字P70・71・72	教科書・演習プリント コミュニケーション図鑑
4	スタディスキル「正しい日本語を使う1敬語」「他者理解1」 漢字P73・74・75	教科書・演習プリント コミュニケーション図鑑
5	スタディスキル「正しい日本語を使う2文法」「他者理解2」 漢字P76・77・78	教科書・演習プリント コミュニケーション図鑑
6	スタディスキル「正しい日本語を使う2文法」「コミュニケーションの取り方1」 漢字 P79・80・81	教科書・演習プリント コミュニケーション図鑑
7	スタディスキル「正しい日本語を使う3語彙」「コミュニケーションの取り方2」 漢字 P82・83・84	教科書・演習プリント コミュニケーション図鑑
8	スタディスキル「正しい日本語を使う3語彙」「人間関係作り1」 漢字P85・86・87	教科書・演習プリント コミュニケーション図鑑
9	スタディスキル「正しい日本語を使う4言葉の多義性」「人間関係作り2」 漢字P8 8・89・90	教科書・演習プリント コミュニケーション図鑑
10	スタディスキル「正しい日本語を使う4言葉の多義性」「チーム作り1」 漢字P91・ 92・93	教科書・演習プリント コミュニケーション図鑑
11	スタディスキル「正しい日本語を使う5表記の仕方」「チーム作り2」漢字P98・99・ 100	教科書・演習プリント コミュニケーション図鑑
12	スタディスキル「正しい日本語を使う5表記の仕方」「自己肯定1」 漢字P101・102・103	教科書・演習プリント コミュニケーション図鑑
13	スタディスキル「正しい日本語を使う6熟語」「自己肯定2」 漢字P104・105・106	教科書・演習プリント コミュニケーション図鑑
14	漢字P107・108・109 リフレクション	教科書・演習プリント コミュニケーション図鑑
15	前期試験返却・漢字学習のまとめ 漢字P110・111・112	教科書・演習プリント コミュニケーション図鑑

〈2026年度〉

授業要項

科目	保健体育	学科名	柔整	履修年次	1 年次
		教授法	講義	単位数コマ	2 単位 (15 コマ)
教員	静谷 真佑	領域	基礎	実務経験	無
教科書	適宜資料を配布します。				
参考書	目で見える筋カトレーニングの解剖学 ホリスティックコンディショニング				
成績評価	修了試験、出席日数を総合的に評価します。				
評価基準	修了試験100点満点の60点以上かつ2/3以上の出席で合格とします。				
到達目標	筋肉の起始・停止・作用・支配神経を理解し、説明することができる。 実際にストレッチやトレーニングを行い、身体の機能や構造の理解を深め、説明することができる。				
留意点	各回の授業内容に沿って授業を行います。日程の配分は適宜調整しながら進めます。				
授業外に必要な学習内容	身体のしくみを理解する授業であり、国家試験の出題範囲でもある解剖学、生理学を学習するうえで基礎となる授業です。本授業のみならず解剖学や生理学の理解度向上に向け、授業内容を身に着けるために予習時間および復習時間が各回45分ずつ必要だと思われると思います。				
授業内容	身体の構造や骨格筋の作用の理解を深めるため参考書の内容を中心にスライドを使用し、解説します。 また、トレーニングやストレッチの方法を学ぶことで知識や技術を高め身体のコンディショニング調整をおこなう基礎を身につけます。 学生同士で実際にストレッチやトレーニングを行い、技術に関してフィードバックを行いながら身体に起こる効果や知識をより深めることを目指します。				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	オリエンテーション	プロジェクター
2	身体機能の発達①(骨格筋)	プロジェクター
3	身体機能の発達②(上肢帯の筋)	プロジェクター
4	身体機能の発達③(上腕・前腕の筋)	プロジェクター
5	身体機能の発達④(胸部の筋)	プロジェクター
6	身体機能の発達⑤(背部の筋)	プロジェクター
7	身体機能の発達⑥(腹部の筋)	プロジェクター
8	身体機能の発達⑦(殿部の筋)	プロジェクター
9	身体機能の発達⑧(大腿部の筋)	プロジェクター
10	身体機能の発達⑨(下腿の筋)	プロジェクター
11	応急処置①	プロジェクター
12	応急処置②	プロジェクター
13	生殖に関わる機能の成熟①	プロジェクター
14	生殖に関わる機能の成熟②	プロジェクター
15	まとめ	プロジェクター

〈2026年度〉

授業要項

科目	解剖学1 Anatomy 1	学科名	柔道整復	履修年次	1 年次
		教授法	講義	単位数コマ	3 単位 (38 コマ)
教員	樋口 知行	領域	専門基礎	実務経験	有
教科書	全国柔道整復学校協会監修 解剖学改訂第2版				
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・三報社印刷 プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論/運動器系 頭部/神経解剖 頸部/胸部/腹部/骨盤部 ・プリント等は「Google classroom」に適宜アップします。必要に応じて各自印刷してください。 				
成績評価	<p>定期試験(90%)及び前回の講義内容の小テストを毎回授業ごとに行いその結果(10%)により評価します。小テストの正解及び解説は授業中にフィードバックします。定期試験の正解および解説は試験終了後フィードバックします。授業に欠席した場合、小テストの追試験は行いません。 なお、定期試験は授業時間外に行います。</p>				
評価基準	<p>前期試験と後期試験を行い、それぞれ100点満点の60点以上を合格とします。 成績評価については学則に準じます。</p>				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 骨や関節の基本構造を理解し説明することができる。 2. 骨格筋の構造について説明することができる。 3. 各筋の形状や起始、停止、支配神経を説明することができる。 4. 柔道整復師国家試験における解剖学の運動系(教科書:P21~P122)の問題内容を理解し、正答できる 				
留意点	<p>授業冒頭で小テストを実施するので授業の内容をしっかりと復習しましょう。 授業中、クラスメイトへ迷惑になる行為はやめましょう。 授業内容に疑問がある場合は、質問を積極的に行ってください。 主に講義形式で実施しますが、適宜グループワークを実施する場合があります。</p>				
授業外に必要な学習内容	<ul style="list-style-type: none"> ・授業前に予習として専門用語を事前に調べ理解してのぞむようにしてください。 ・授業内で重要な箇所を示しますので、指定箇所を中心に小テストに向けた勉強を行ってください。なお、授業内容を身に付けるために予習時間および復習時間は各回45分ずつ必要になると思われます。 <p>「ディプロマポリシーとの関連性」 必要な知識・技術・技能及び態度を習得に該当します。</p>				
授業内容	<p>柔道整復師として接骨院で勤務経験した経験をもとに人体の構造について講義します。解剖学は全ての医療系科目の基礎であるため、十分に理解しなければ他の科目も理解できない。柔道整復師にとって重要な運動器の解剖学を身に付け、最終的に国家試験に必要な解剖学的知識だけでなく、他の科目との関係や臨床的に必要な解剖学的知識の獲得を目指します。</p>				

授業内容

日程	内 容	使用機材等
1	<p>【タイトル】骨格系総論① 【到達目標】骨の役割、骨の形状による分類について説明ができる 【授業形態】講義形式 【備 考】教科書P21を予習しましょう。</p>	プロジェクター
2	<p>【タイトル】骨格系総論② 【到達目標】骨の構造、骨の発生と成長について説明ができる 【授業形態】講義形式 【備 考】 教科書P21~P25までを予習しましょう。 前回の講義に対する小テストを行いますので復習しましょう。</p>	プロジェクター
3	<p>【タイトル】骨格系総論③ 【到達目標】骨の連結について説明ができる 【授業形態】講義形式 【備 考】 教科書P25~P28までを予習しましょう。 前回の講義に対する小テストを行いますので復習しましょう。</p>	プロジェクター

4	<p>【タイトル】筋系総論(骨格筋) 【到達目標】骨格筋の構造について説明ができる 【授業形態】講義形式 【備考】 教科書P70～P76までを予習しましょう。 前回の講義に対する小テストを行いますので復習しましょう。</p>	プロジェクター
5	<p>【タイトル】上肢骨① 【到達目標】肩甲骨、鎖骨、上腕骨の構造について説明ができる 【授業形態】 主に講義形式で実施。必要に応じて骨模型や標本を使用しスケッチを行う。 【備考】 教科書P36～P40までを予習しましょう。 前回の講義に対する小テストを行いますので復習しましょう。</p>	プロジェクター 骨模型
6	<p>【タイトル】上肢骨② 【到達目標】 橈骨、尺骨、手根骨、指骨の構造について説明ができる 【授業形態】 主に講義形式で実施。必要に応じて骨模型や標本を使用しスケッチを行う。 【備考】 教科書P40～P42までを予習しましょう。 前回の講義に対する小テストを行いますので復習しましょう。</p>	プロジェクター 骨模型
7	<p>【タイトル】上肢の関節 【到達目標】 胸鎖関節、肩鎖関節、肩甲上腕関節、肘関節、橈尺関節、手関節の構造や形態について説明ができる。 【授業形態】 主に講義形式で実施。必要に応じて骨模型や標本を使用しスケッチを行う。 【備考】 教科書P40～P42までを予習しましょう。 前回の講義に対する小テストを行いますので復習しましょう。</p>	プロジェクター 骨模型
8	<p>【タイトル】上肢の筋① 【到達目標】 上肢帯の筋(三角筋、棘上筋、棘下筋、小円筋、大円筋、肩甲下筋)を理解し説明することができる。 【授業形態】講義形式 【備考】 教科書P92～P95までを予習しましょう。 前回の講義に対する小テストを行いますので復習しましょう。</p>	プロジェクター
9	<p>【タイトル】上肢の筋② 【到達目標】 上肢の筋(烏口腕筋、上腕二頭筋、上腕筋、上腕三頭筋、肘筋)を理解し説明することができる。 【授業形態】講義形式 【備考】 教科書P95～P97までを予習しましょう。 前回の講義に対する小テストを行いますので復習しましょう。</p>	プロジェクター
10	<p>【タイトル】上肢の筋③ 【到達目標】 前腕屈筋(円回内筋、橈側手根屈筋、長掌筋、浅指屈筋、尺側手根屈筋、深指屈筋、長母指屈筋、方形回内筋)を理解し説明することができる。 【授業形態】講義形式 【備考】 教科書P97～P100までを予習しましょう。 前回の講義に対する小テストを行いますので復習しましょう。</p>	プロジェクター

11	<p>【タイトル】上肢の筋④</p> <p>【到達目標】 前腕伸筋(腕橈骨筋、長橈側手根伸筋、短橈側手根伸筋、指伸筋、小指伸筋、尺側手根伸筋)を理解し説明することができる。</p> <p>【授業形態】講義形式</p> <p>【備考】 教科書P100～P101までを予習しましょう。 前回の講義に対する小テストを行いますので復習しましょう。</p>	プロジェクター
12	<p>【タイトル】上肢の筋⑤</p> <p>【到達目標】 前腕伸筋(回外筋、長母指外転筋、短母指伸筋、長母指伸筋、示指伸筋、小指伸筋)を理解し説明することができる。</p> <p>【授業形態】講義形式</p> <p>【備考】 教科書P101～P102までを予習しましょう。 前回の講義に対する小テストを行いますので復習しましょう。</p>	プロジェクター
13	<p>【タイトル】上肢の筋⑥</p> <p>【到達目標】 手の筋(母指球筋、小指球筋、中手筋)を理解し説明することができる。</p> <p>【授業形態】講義形式</p> <p>【備考】 教科書P101～P102までを予習しましょう。 前回の講義に対する小テストを行いますので復習しましょう。</p>	プロジェクター
14	<p>【タイトル】下肢骨①</p> <p>【到達目標】寛骨、仙骨の構造について説明ができる</p> <p>【授業形態】 主に講義形式で実施。必要に応じて骨模型や標本を使用しスケッチを行う。</p> <p>【備考】 教科書P46～P50までを予習しましょう。 前回の講義に対する小テストを行いますので復習しましょう。</p>	プロジェクター
15	<p>【タイトル】下肢骨②</p> <p>【到達目標】大腿骨、脛骨、腓骨、膝蓋骨の構造について説明ができる</p> <p>【授業形態】 主に講義形式で実施。必要に応じて骨模型や標本を使用しスケッチを行う。</p> <p>【備考】 教科書P51～P53までを予習しましょう。 前回の講義に対する小テストを行いますので復習しましょう。</p>	プロジェクター 骨模型
16	<p>【タイトル】下肢骨③</p> <p>【到達目標】足根骨の構造について説明ができる</p> <p>【授業形態】 主に講義形式で実施。必要に応じて骨模型や標本を使用しスケッチを行う。</p> <p>【備考】 教科書P53～P55までを予習しましょう。 前回の講義に対する小テストを行いますので復習しましょう。</p>	プロジェクター 骨模型
17	<p>【タイトル】上肢の解剖復習</p> <p>【到達目標】 上肢の解剖および下肢骨を総合的に理解し、問題を正しく解答することができる。</p> <p>【授業形態】講義形式</p> <p>【備考】 今までの授業内容の復習になるため資料などを持参しましょう。 前回の講義に対する小テストを行いますので復習しましょう。</p>	プロジェクター

18	<p>【タイトル】まとめおよび中間試験の解説</p> <p>【到達目標】 上肢の解剖を説明することができる。</p> <p>【授業形態】講義形式</p> <p>【備考】なし</p>	プロジェクター
19	<p>【タイトル】下肢の関節</p> <p>【到達目標】股関節、膝関節、脛腓関節、距腿関節、足根間関節、足根中足関節、中足指節関節、足趾指節関節の構造について説明ができる</p> <p>【授業形態】 主に講義形式で実施。必要に応じて骨模型や標本を使用しスケッチを行う。</p> <p>【備考】 教科書P55～P59までを予習しましょう。 前回の講義に対する小テストを行いますので復習しましょう。</p>	プロジェクター 骨模型
20	<p>【タイトル】下肢の筋①</p> <p>【到達目標】 下肢帯の筋(内腸骨筋、外腸骨筋)を理解し説明することができる。</p> <p>【授業形態】講義形式</p> <p>【備考】 教科書P107～P111までを予習しましょう。 前回の講義に対する小テストを行いますので復習しましょう。</p>	プロジェクター
21	<p>【タイトル】下肢の筋②</p> <p>【到達目標】 大腿の筋(縫工筋、大腿四頭筋、膝関節筋、大腿二頭筋、半腱様筋、半膜様筋)を理解し説明することができる。</p> <p>【授業形態】講義形式</p> <p>【備考】 教科書P112～P114までを予習しましょう。 前回の講義に対する小テストを行いますので復習しましょう。</p>	プロジェクター
22	<p>【タイトル】下肢の筋③</p> <p>【到達目標】 大腿の筋(恥骨筋、長内転筋、短内転筋、大内転筋、薄筋、外閉鎖筋)を理解し説明することができる。</p> <p>【授業形態】講義形式</p> <p>【備考】 教科書P112～P113までを予習しましょう。 前回の講義に対する小テストを行いますので復習しましょう。</p>	プロジェクター
23	<p>【タイトル】下肢の筋④</p> <p>【到達目標】 下腿の筋(前脛骨筋、長母指伸筋、長趾伸筋、第3腓骨筋、長腓骨筋、短腓骨筋)を理解し説明することができる。</p> <p>【授業形態】講義形式</p> <p>【備考】 教科書P115～P117までを予習しましょう。 前回の講義に対する小テストを行いますので復習しましょう。</p>	プロジェクター
24	<p>【タイトル】下肢の筋⑤</p> <p>【到達目標】 下腿の筋(下腿三頭筋、足底筋、膝窩筋、後脛骨筋、長趾屈筋、長母指屈筋)を理解し説明することができる。</p> <p>【授業形態】講義形式</p> <p>【備考】 教科書P118を予習しましょう。 前回の講義に対する小テストを行いますので復習しましょう。</p>	プロジェクター

25	<p>【タイトル】下肢の筋⑥</p> <p>【到達目標】足の筋(足背の筋, 足底の筋)を理解し説明することができる。</p> <p>【授業形態】講義形式</p> <p>【備考】教科書P118～P122までを予習しましょう。前回の講義に対する小テストを行いますので復習しましょう。</p>	プロジェクター
26	<p>【タイトル】頭蓋骨①</p> <p>【到達目標】脳頭蓋の構造について説明ができる</p> <p>【授業形態】主に講義形式で実施。必要に応じて骨模型や標本を使用しスケッチを行う。</p> <p>【備考】教科書P59～P62までを予習しましょう。前回の講義に対する小テストを行いますので復習しましょう。</p>	プロジェクター 骨模型
27	<p>【タイトル】頭蓋骨②</p> <p>【到達目標】顔面頭蓋の構造について説明ができる</p> <p>【授業形態】主に講義形式で実施。必要に応じて骨模型や標本を使用しスケッチを行う。</p> <p>【備考】教科書P62～P64までを予習しましょう。前回の講義に対する小テストを行いますので復習しましょう。</p>	プロジェクター 骨模型
28	<p>【タイトル】頭蓋骨③</p> <p>【到達目標】頭蓋冠, 頭蓋底, 顔面の構造について説明ができる</p> <p>【授業形態】主に講義形式で実施。必要に応じて骨模型や標本を使用しスケッチを行う。</p> <p>【備考】教科書P64～P70までを予習しましょう。前回の講義に対する小テストを行いますので復習しましょう。</p>	プロジェクター 骨模型
29	<p>【タイトル】顎関節</p> <p>【到達目標】顎関節の構造, 咀嚼筋について説明ができる</p> <p>【授業形態】主に講義形式で実施。必要に応じて骨模型や標本を使用しスケッチを行う。</p> <p>【備考】教科書P70, 78を予習しましょう。前回の講義に対する小テストを行いますので復習しましょう。</p>	プロジェクター
30	<p>【タイトル】脊柱①</p> <p>【到達目標】脊柱の役割, 構成, 基本的構造, 頸椎・胸椎の構造について説明ができる</p> <p>【授業形態】主に講義形式で実施。必要に応じて骨模型や標本を使用しスケッチを行う。</p> <p>【備考】教科書P28～P31までを予習しましょう。前回の講義に対する小テストを行いますので復習しましょう。</p>	プロジェクター 骨模型
31	<p>【タイトル】脊柱②</p> <p>【到達目標】腰椎, 仙骨, 尾骨の構造及び脊柱の連結について説明ができる</p> <p>【授業形態】主に講義形式で実施。必要に応じて骨模型や標本を使用しスケッチを行う。</p> <p>【備考】教科書P31～P33までを予習しましょう。前回の講義に対する小テストを行いますので復習しましょう。</p>	プロジェクター 骨模型

32	<p>【タイトル】胸郭 【到達目標】肋骨、胸骨の構造及び胸郭の連結について説明ができる 【授業形態】主に講義形式で実施。必要に応じて骨模型や標本を使用しスケッチを行う。 【備考】教科書P33～P36までを予習しましょう。前回の講義に対する小テストを行いますので復習しましょう。</p>	プロジェクター 骨模型
33	<p>【タイトル】顔面の筋 【到達目標】顔面筋(頭蓋表筋, 眼の周囲筋, 鼻の周囲筋, 口の周囲筋, 耳の周囲筋)を理解し説明ができる 【授業形態】講義形式 【備考】教科書P76～P78までを予習しましょう。前回の講義に対する小テストを行いますので復習しましょう。</p>	プロジェクター
34	<p>【タイトル】頸部の筋 【到達目標】広頸筋, 胸鎖乳突筋, 前頸筋, 後頸筋, 及び頸部三角を理解し説明ができる 【授業形態】講義形式 【備考】教科書P78～P81までを予習しましょう。前回の講義に対する小テストを行いますので復習しましょう。</p>	プロジェクター
35	<p>【タイトル】胸部・腹部の筋 【到達目標】浅胸筋, 深胸筋, 横隔膜, 前腹筋, 側腹筋, 後腹筋, 尿管を理解し説明ができる 【授業形態】講義形式 【備考】教科書P81～P88までを予習しましょう。前回の講義に対する小テストを行いますので復習しましょう。</p>	プロジェクター
36	<p>【タイトル】背部の筋 【到達目標】浅背筋(僧帽筋, 広背筋, 肩甲挙筋, 菱形筋), 深背筋(上後鋸筋, 下後鋸筋, 固有背筋)を理解し説明ができる 【授業形態】講義形式 【備考】教科書P88～P92までを予習しましょう。前回の講義に対する小テストを行いますので復習しましょう。</p>	プロジェクター
37	<p>【タイトル】下肢・体幹の解剖学復習 【到達目標】下肢及び体幹の解剖を総合的に理解し、問題を正しく解答することができる。 【授業形態】講義形式 【備考】今までの授業内容の復習になるため資料などを持参しましょう。前回の講義に対する小テストを行いますので復習しましょう。</p>	プロジェクター
38	<p>【タイトル】まとめおよび修了試験の解説 【到達目標】下肢・体幹の解剖を説明することができる。 【授業形態】講義形式 【備考】なし</p>	プロジェクター

〈2026年度〉

授業要項

科 目	解剖学 2	学科名	柔道整復	履修年次	1 年次
		教授法	講義	単位数コマ	3 単位 (38 コマ)
教 員	増田 裕次	領域	専門基礎	実務経験	有
教科書	解剖学改訂第2版				
参考書	なし				
成績評価	テスト(2回)・課題				
評価基準	総合的に判断する				
到達目標	解剖学を説明できる				
留意点					
授業外に必要な学習内容	復習をしっかりと行う				
授業内容	歯科医師としての経験をもとに、解剖学(総論・内蔵学・内分泌学・脈管学・神経学)の講義を行う。				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	総論 (1)	
2	総論 (2)	
3	内臓学・口腔	
4	内臓学・消化器 (1)	
5	内臓学・消化器 (2)	
6	内臓学・消化器 (3)	
7	内臓学・呼吸器	
8	内蔵学・泌尿器 (1)	
9	内臓学・泌尿器 (2)	
10	内臓学・生殖器	
11	内分泌学 (1)	
12	内分泌学 (2)	

13	内分泌学（3）	
14	演習 1	
15	演習 2	
16	脈管学・総論	
17	脈管学・心臓（1）	
18	脈管学・心臓（2）	
19	脈管学・動脈（1）	
20	脈管学・動脈（2）	
21	脈管学・静脈（1）	
22	脈管学・静脈（2）	
23	胎児循環	
24	リンパ系	
25	神経の働き	
26	神経学・中枢神経（1）	
27	神経学・中枢神経（2）	
28	神経学・末梢神経・三叉神経（1）	
29	神経学・末梢神経・三叉神経（2）	
30	神経学・末梢神経・頸神経叢	
31	神経学・末梢神経・腕神経叢（1）	
32	神経学・末梢神経・腕神経叢（2）	
33	神経学・末梢神経・胸神経、腰神経叢	
34	神経学・末梢神経・仙骨神経叢	
35	神経学・自律神経	
36	感覚器学・特殊感覚	
37	感覚器学・一般感覚	
38	演習	

〈2026年度〉

授業要項

科 目	解剖学 3	学科名	柔道整復	履修年次	3 年次
		教授法	講義	単位数コマ	1 単位 (13 コマ)
教 員	増田 裕次	領域	専門基礎	実務経験	有
教科書	解剖学 公益社団法人全国柔道整復学校協会監修 改訂第2版				
参考書					
成績評価	定期テスト、出席などから判断する				
評価基準	60点以上を合格とする				
到達目標	脈管系、内臓系、内分泌系の正常な構造及び機能を理解し、設問に正しく答えられる。				
留意点					
授業外に必要な学習内容					
授業内容	歯科医師として病院勤務の経験をもとに、「解剖学」のうち、人体解剖学概説、脈管系、内臓系、内分泌系について、各器官の位置、構造的特徴及び機能について、講義と演習を行う。				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	内臓－消化器（1） 口腔、咽頭、食道、胃、小腸、大腸	
2	内臓－消化器（2） 膵臓、肝臓、腹膜	
3	内臓－呼吸器	
4	内臓－泌尿器	
5	内臓－生殖器	
6	内分泌系	
7	脈管（1） 血管、心臓	
8	脈管（2） 頭頸部と体幹の脈管	
9	脈管（3） 上肢の脈管	
10	脈管（4） 下肢の脈管	
11	脈管（5） リンパ	
12	まとめ	
13	定期試験解説	

〈2026年度〉

授業要項

科 目	生理学 1	学科名	柔道整復	履修年次	1 年次
		教授法	講義	単位数コマ	3 単位 (38 コマ)
教 員	竹岡 みち子	領域	専門基礎	実務経験	有
教科書	「生理学改定第4版」南江堂				
参考書	必要に応じ適宜示唆解説する				
成績評価	定期試験、小テスト(講義中実施)、及び出席状況に基づく総合判定				
評価基準	定期試験で6割以上 (小テストを加味する)				
到達目標	人体を構成する細胞、組織、器官の機能につき、個別の知識だけでなく、身体を統合した上での理解を深める				
留意点	その日のうちに必ず教科書を読み返し復習すること				
授業外に必要な学習内容	その日のうちに必ず毎回配布するプリントを復習し、教科書の該当部分を読み返す。また、小テストの準備をする				
授業内容	大学教員としての経験をもとに、教科書の内容を中心に、スライドを使用してわかりやすく解説して行く。前回の授業内容の理解度を把握するため、毎回授業前に小テストを行う。直後に解答を配布するが、これが授業一回ごとのまとめとなる				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	1. 生理学とは	教科書・スライド
2	1. 生理学とは	教科書・スライド
3	8. 血液	教科書・スライド
4	8. 血液	教科書・スライド
5	まとめプリントの使い方	教科書・スライド
6	8. 血液	教科書・スライド
7	8. 血液	教科書・スライド
8	8. 血液	教科書・スライド
9	10. 循環	教科書・スライド
10	10. 循環	教科書・スライド
11	10. 循環	教科書・スライド
12	10. 循環	教科書・スライド

13	10. 循環	教科書・スライド
14	11. 呼吸の生理	教科書・スライド
15	11. 呼吸の生理	教科書・スライド
16	11. 呼吸の生理	教科書・スライド
17	11. 呼吸の生理	教科書・スライド
18	総括・復習	教科書・スライド
19	前期試験解説	教科書・スライド
20	11. 呼吸の生理	教科書・スライド
21	12. 尿の生成と排泄	教科書・スライド
22	12. 尿の生成と排泄	教科書・スライド
23	12. 尿の生成と排泄	教科書・スライド
24	12. 尿の生成と排泄	教科書・スライド
25	13. 栄養と代謝	教科書・スライド
26	13. 栄養と代謝	教科書・スライド
27	13. 栄養と代謝	教科書・スライド
28	13. 栄養と代謝	教科書・スライド
29	13. 栄養と代謝	教科書・スライド
30	14. 消化と吸収	教科書・スライド
31	14. 消化と吸収	教科書・スライド
32	14. 消化と吸収	教科書・スライド
33	14. 消化と吸収	教科書・スライド
34	14. 消化と吸収	教科書・スライド
35	14. 消化と吸収	教科書・スライド
36	総括・復習1	教科書・スライド
37	総括・復習2	教科書・スライド
38	後期試験解説	教科書・スライド

〈2026年度〉

授業要項

科 目	生理学 2	学科名	柔道整復	履修年次	2 年次
		教授法	講義	単位数コマ	3 単位 (38 コマ)
教 員	竹岡 みち子	領域	専門基礎	実務経験	有
教科書	「生理学改定第4版」南江堂				
参考書	必要に応じ適宜示唆解説する				
成績評価	定期試験、小テスト(講義中実施)、及び出席状況に基づく総合判定				
評価基準	定期試験で6割以上 (小テストを加味する)				
到達目標	人体を構成する細胞、組織、器官の機能につき、個別の知識だけでなく、身体を統合した上での理解を深める				
留意点	その日のうちに必ず教科書を読み返し復習すること				
授業外に必要な学習内容	その日のうちに必ず毎回配布するプリントを復習し、教科書の該当部分を読み返す。また、小テストの準備をする				
授業内容	大学教員としての経験をもとに、教科書の内容を中心に、スライドを使用してわかりやすく解説して行く。前回の授業内容の理解度を把握するため、毎回授業前に小テストを行う。直後に解答を配布するが、これが授業一回ごとのまとめとなる				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	6. 内分泌	教科書・スライド
2	6. 内分泌	教科書・スライド
3	6. 内分泌	教科書・スライド
4	6. 内分泌	教科書・スライド
5	7. 生殖	教科書・スライド
6	7. 生殖	教科書・スライド
7	7. 生殖	教科書・スライド
8	9. 骨の生理	教科書・スライド
9	9. 骨の生理	教科書・スライド
10	3. 神経の生理	教科書・スライド
11	3. 神経の生理	教科書・スライド
12	3. 神経の生理	教科書・スライド

13	3. 神経の生理	教科書・スライド
14	3. 神経の生理	教科書・スライド
15	3. 神経の生理	教科書・スライド
16	3. 神経の生理	教科書・スライド
17	4. 運動の生理	教科書・スライド
18	総括・復習	教科書・スライド
19	前期試験解説	教科書・スライド
20	4. 運動の生理	教科書・スライド
21	4. 運動の生理	教科書・スライド
22	4. 運動の生理	教科書・スライド
23	4. 運動の生理	教科書・スライド
24	4. 運動の生理	教科書・スライド
25	5. 感覚の生理	教科書・スライド
26	5. 感覚の生理	教科書・スライド
27	5. 感覚の生理	教科書・スライド
28	5. 感覚の生理	教科書・スライド
29	5. 感覚の生理	教科書・スライド
30	5. 感覚の生理	教科書・スライド
31	問題演習1	教科書・スライド
32	問題演習2	教科書・スライド
33	問題演習3	教科書・スライド
34	問題演習4	教科書・スライド
35	問題演習5	教科書・スライド
36	問題演習6	教科書・スライド
37	総括・復習	教科書・スライド
38	後期試験解説	教科書・スライド

(2026年度)

授業要項

科目	運動学 Kinesiology	学科名	柔道整復	履修年次	3年次
		教授法	講義	単位数コマ	3単位(38コマ)
教員	宮坂 卓治	領域	専門基礎	実務経験	有
教科書	運動学(改訂第3版) 全国柔道整復学校協会監修・医歯薬出版				
参考書	参考書、問題集等必要なものがある場合、事前に連絡します。お持ちでない方は必ず購入して下さい。必要な資料等は「Google Classroom」にアップしますので、必要に応じ各自印刷してください。				
成績評価	<p>定期試験(2回)90%、小テスト(35回程度)10%にて評価します。</p> <p>定期試験の解答例・解説は、まとめの授業(試験終了後)においてフィードバックします。</p> <p>小テスト(理解度確認テスト)の解答解説は毎時間行い、その都度フィードバックします。</p> <p>※授業形態は対面授業形態を予定しておりますが、状況により遠隔授業になる場合もあります。その場合の成績評価方法は、通常とは若干異なる場合も想定されます。変更があった場合、速やかにご連絡いたしますが、予めご了承ください。</p> <p>尚、定期試験においては追再試験を実施しますが、小テストの追再試験は行いません。再試験の得点には小テストは加味されません。定期試験は授業時間外に行います。</p>				
評価基準	前期試験と後期試験を行い、それぞれ100点満点の60点以上を合格といたします。成績評価につきましては学則に準じます。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 身体運動を科学的に理解し、説明することができる。 2. 運動の正常値を理解し、異常運動を捕らえることができる。 3. 運動器の正常と異常を理解し、説明することができる。 4. 柔道整復師国家試験における運動学範囲の出題形式や問題内容を理解し、正解を導くことができる。 				
留意点	<p>毎時間小テストを行いますので、授業の復習をしっかり行いましょう。</p> <p>授業中の飲食、私語、携帯電話の操作など、他人の迷惑になる行為はやめましょう。</p> <p>尚、授業形態は対面授業形態を予定しておりますが、状況により遠隔授業になる場合もあります。その場合の成績評価方法は、通常とは若干異なる場合も想定されます。変更があった場合、速やかにご連絡いたしますが、予めご了承ください。</p> <p>授業内容で質問等がある場合は、直接聞きに来るか、「Google classroom」にも質問受付項目を設けますので、ご活用ください。また、授業で使用した資料も「Google classroom」にアップしますので、適宜お使いください(ペーパーレス化にもご協力ください)。尚、授業の記録をとる目的で授業の動画を録画いたします。あらかじめご了承ください。</p> <p>メールアドレス: miyasaka@kowagakuen.ac.jp オフィスアワー: 水曜日 16:20~17:00</p>				
授業外に必要な学習内容	<p>解剖学、生理学が基礎となる科目です。1~2年次に学習した内容を見直して、授業に備えましょう。</p> <p>予習として教科書に書かれている語句(これまでに学修したもの)の意味を調べてから授業に臨んでください。復習として、授業最後にその日の授業のまとめをします。その際、最重要箇所を示しますので指定されたものを理解したうえで覚えてください。その内容を、次の授業のはじめに小テストを行い理解度を確認します。予習には各回45分程度、復習にも各回45分程度の時間が必要と思われる。</p> <p>「ディプロマポリシーとの関連性」 医療従事者として必要な知識の習得に該当します。</p>				
授業内容	<p>大学教員として大学等での勤務経験を踏まえ、本科目では次のことを教授する。</p> <p>運動学は身体運動を科学的に研究する学問です。人間の運動に関わる正常な構造と機能について学びましょう。</p> <p>この授業は主に講義形式ですが、適宜ペアワーク、グループディスカッション、Google Classroomを利用した双方向授業等、アクティブラーニングを実施します。</p>				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	<p>【タイトル】 授業の進め方と評価方法、運動学の目的 1 (運動学とは)</p> <p>【到達目標】 授業の進め方と評価方法、運動学の目的 (運動学とは、運動学の領域と目的、運動のとらえ方、運動の表し方について理解し説明できる。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワーク、「Google Classroom」を用いた双方向授業を実施します。</p> <p>【備 考】 教科書 p 1-7 までの予習し授業に臨みましょう。</p>	プロジェクター
2	<p>【タイトル】 関節運動の表示、身体運動と力学 (運動に関する力、人体における単一機会構造)</p> <p>【到達目標】 関節運動の表示、身体運動と力学 (運動に関する力、人体における単一機会構造について理解し説明できる。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワーク、「Google Classroom」を用いた双方向授業を実施します。</p> <p>【備 考】 教科書 p 8-15 までの予習し授業に臨みましょう。</p>	プロジェクター 理解度確認テスト 1

3	<p>【タイトル】 滑車と輪軸、力学的有利性、運動の法則、運動量保存の法則、質量・重量・力の単位</p> <p>【到達目標】 滑車と輪軸、力学的有利性、運動の法則、運動量保存の法則、質量・重量・力の単位について理解し説明できる。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワーク、「Google Classroom」を用いた双方向授業を実施します。</p> <p>【備考】 教科書 p 15 - 19 までの予習し授業に臨みましょう。</p>	<p>プロジェクター 理解度確認テスト 2</p>
4	<p>【タイトル】 仕事と力学的エネルギー、運動器の構造と機能</p> <p>【到達目標】 仕事と力学的エネルギー、運動器の構造と機能について理解し説明できる。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワーク、「Google Classroom」を用いた双方向授業を実施します。</p> <p>【備考】 教科書 p 20 - 27 までの予習し授業に臨みましょう。</p>	<p>プロジェクター 理解度確認テスト 3</p>
5	<p>【タイトル】 骨の発生と成長、骨とビタミン・ホルモン、関節の構造と機能、骨格筋の構造と機能</p> <p>【到達目標】 呼吸器疾患の概要と主要徴候について理解し説明できる。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワーク、「Google Classroom」を用いた双方向授業を実施します。</p> <p>【備考】 教科書 p 27 - 34 までの予習し授業に臨みましょう。</p>	<p>プロジェクター 理解度確認テスト 4</p>
6	<p>【タイトル】 筋線維の種類、運動単位、神経筋接合部、筋収縮の機構、筋の働き、</p> <p>【到達目標】 呼吸器疾患の概要と主要徴候について理解し説明できる。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワーク、「Google Classroom」を用いた双方向授業を実施します。</p> <p>【備考】 教科書 p 34 - 39 までの予習し授業に臨みましょう。</p>	<p>プロジェクター 理解度確認テスト 5</p>
7	<p>【タイトル】 神経の構造と機能 1 (神経細胞、末梢神経)</p> <p>【到達目標】 神経細胞、末梢神経について理解し説明できる。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワーク、「Google Classroom」を用いた双方向授業を実施します。</p> <p>【備考】 教科書 p 41 - 45 までの予習し授業に臨みましょう。</p>	<p>プロジェクター 理解度確認テスト 6</p>
8	<p>【タイトル】 神経の構造と機能 2 (中枢神経)</p> <p>【到達目標】 中枢神経について理解し説明できる。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワーク、「Google Classroom」を用いた双方向授業を実施します。</p> <p>【備考】 教科書 p 46 - 50 までの予習し授業に臨みましょう。</p>	<p>プロジェクター 理解度確認テスト 7</p>
9	<p>【タイトル】 運動感覚、反射と随意運動 1 (反射、反射弓)</p> <p>【到達目標】 感覚と知覚、感覚の種類、反射、反射弓について理解し説明できる。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワーク、「Google Classroom」を用いた双方向授業を実施します。</p> <p>【備考】 教科書 p 51 - 58 までの予習し授業に臨みましょう。</p>	<p>プロジェクター 理解度確認テスト 8</p>

10	<p>【タイトル】 反射と随意運動2（反射の種類、反射中枢の部位による分類）</p> <p>【到達目標】 反射の種類、反射中枢の部位による分類について理解し説明できる。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワーク、「Google Classroom」を用いた双方向授業を実施します。</p> <p>【備考】 教科書p58-63までの予習し授業に臨みましょう。</p>	<p>プロジェクター 理解度確認テスト9</p>
11	<p>【タイトル】 連合運動と共同運動、随意運動</p> <p>【到達目標】 連合運動と共同運動、随意運動について理解し説明できる。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワーク、「Google Classroom」を用いた双方向授業を実施します。</p> <p>【備考】 教科書p64-68までの予習し授業に臨みましょう。</p>	<p>プロジェクター 理解度確認テスト10</p>
12	<p>【タイトル】 四肢と体幹の運動1（上肢帯の運動）</p> <p>【到達目標】 上肢帯の運動について理解し説明できる。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワーク、「Google Classroom」を用いた双方向授業を実施します。</p> <p>【備考】 教科書p69-77までの予習し授業に臨みましょう。</p>	<p>プロジェクター 理解度確認テスト11</p>
13	<p>【タイトル】 四肢と体幹の運動2（肩関節の運動）</p> <p>【到達目標】 肩関節の運動について理解し説明できる。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワーク、「Google Classroom」を用いた双方向授業を実施します。</p> <p>【備考】 教科書p78-86までの予習し授業に臨みましょう。</p>	<p>プロジェクター 理解度確認テスト12</p>
14	<p>【タイトル】 四肢と体幹の運動3（肘関節と前腕の運動）</p> <p>【到達目標】 肘関節と前腕の運動について理解し説明できる。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワーク、「Google Classroom」を用いた双方向授業を実施します。</p> <p>【備考】 教科書p87-94までの予習し授業に臨みましょう。</p>	<p>プロジェクター 理解度確認テスト13</p>
15	<p>【タイトル】 四肢と体幹の運動4（手関節と手の運動）</p> <p>【到達目標】 手関節と手の運動について理解し説明できる。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワーク、「Google Classroom」を用いた双方向授業を実施します。</p> <p>【備考】 教科書p95-102までの予習し授業に臨みましょう。</p>	<p>プロジェクター 理解度確認テスト14</p>
16	<p>【タイトル】 四肢と体幹の運動5（手関節と手の筋）</p> <p>【到達目標】 肘関節と手の筋について理解し説明できる。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワーク、「Google Classroom」を用いた双方向授業を実施します。</p> <p>【備考】 教科書p102-113までの予習し授業に臨みましょう。</p>	<p>プロジェクター 理解度確認テスト15</p>

17	<p>【タイトル】 股関節の運動1 【到達目標】 股関節の運動について理解し説明できる。 【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワーク、「Google Classroom」を用いた双方向授業を実施します。 【備考】 教科書 p 114 - 118 までの予習し授業に臨みましょう。</p>	<p>プロジェクター 理解度確認テスト16</p>
18	<p>【タイトル】 股関節の運動2（股関節の筋）、膝関節の運動1 【到達目標】 股関節の筋と膝関節の運動について理解し説明できる。 【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワーク、「Google Classroom」を用いた双方向授業を実施します。 【備考】 教科書 p 119 - 124 までの予習し授業に臨みましょう。</p>	<p>プロジェクター 理解度確認テスト17</p>
19	<p>【タイトル】 膝関節の運動2 【到達目標】 膝関節の運動について理解し説明できる。 【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワーク、「Google Classroom」を用いた双方向授業を実施します。 【備考】 教科書 p 125 - 130 までの予習し授業に臨みましょう。</p>	<p>プロジェクター 理解度確認テスト18</p>
20	<p>【タイトル】 前期試験問題の解答と解説、足関節と足部の運動 【到達目標】 足関節と足部の運動について理解し説明できる。 【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワーク、「Google Classroom」を用いた双方向授業を実施します。 【備考】 教科書 p 131 - 135 までの予習し授業に臨みましょう。</p>	<p>プロジェクター</p>
21	<p>【タイトル】 足の筋 【到達目標】 足の筋について説明できる。 【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワーク、「Google Classroom」を用いた双方向授業を実施します。 【備考】 教科書 p 135 - 144 までの予習し授業に臨みましょう。</p>	<p>プロジェクター 理解度確認テスト19</p>
22	<p>【タイトル】 足のアーチ、足の変形、体幹と脊柱の運動 【到達目標】 呼吸器疾患の概要と主要徴候について説明できる。 【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワーク、「Google Classroom」を用いた双方向授業を実施します。 【備考】 教科書 p 144 - 153 までの予習し授業に臨みましょう。</p>	<p>プロジェクター 理解度確認テスト20</p>
23	<p>【タイトル】 頸部の筋 【到達目標】 頸部の筋について理解し説明できる。 【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワーク、「Google Classroom」を用いた双方向授業を実施します。 【備考】 教科書 p 153 - 160 までの予習し授業に臨みましょう。</p>	<p>プロジェクター 理解度確認テスト21</p>
24	<p>【タイトル】 胸椎と胸郭の運動、腰椎・仙椎および骨盤の運動 【到達目標】 胸椎と胸郭の運動、腰椎・仙椎および骨盤の運動について理解し説明できる。 【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワーク、「Google Classroom」を用いた双方向授業を実施します。 【備考】 教科書 p 161 - 168 までの予習し授業に臨みましょう。</p>	<p>プロジェクター 理解度確認テスト22</p>

25	<p>【タイトル】 腰椎の運動、腰椎部の筋、顔面および頭部の運動</p> <p>【到達目標】 腰椎の運動、腰椎部の筋、顔面および頭部の運動について理解し説明できる。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワーク、「Google Classroom」を用いた双方向授業を実施します。</p> <p>【備考】 教科書 p 168-176 までの予習し授業に臨みましょう。</p>	<p>プロジェクター 理解度確認テスト 23</p>
26	<p>【タイトル】 姿勢1（姿勢の分類、重心、立位姿勢、立位姿勢の制御）</p> <p>【到達目標】 姿勢の分類、重心、立位姿勢、立位姿勢の制御について理解し説明できる。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワーク、「Google Classroom」を用いた双方向授業を実施します。</p> <p>【備考】 教科書 p 177-186 までの予習し授業に臨みましょう。</p>	<p>プロジェクター 理解度確認テスト 24</p>
27	<p>【タイトル】 機能肢位、歩行1（歩行周期、歩行の運動学的分析）</p> <p>【到達目標】 機能肢位、歩行周期、歩行の運動学的分析について理解し説明できる。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワーク、「Google Classroom」を用いた双方向授業を実施します。</p> <p>【備考】 教科書 p 187-196 までの予習し授業に臨みましょう。</p>	<p>プロジェクター 理解度確認テスト 25</p>
28	<p>【タイトル】 歩行2（歩行の運動力学的分析、歩行時の筋活動、歩行のエネルギー代謝、走行）</p> <p>【到達目標】 歩行の運動力学的分析、歩行時の筋活動、歩行のエネルギー代謝、走行について理解し説明できる。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワーク、「Google Classroom」を用いた双方向授業を実施します。</p> <p>【備考】 教科書 p 197-206 までの予習し授業に臨みましょう。</p>	<p>プロジェクター 理解度確認テスト 26</p>
29	<p>【タイトル】 異常歩行</p> <p>【到達目標】 異常歩行について理解し説明できる。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワーク、「Google Classroom」を用いた双方向授業を実施します。</p> <p>【備考】 教科書 p 207-211 までの予習し授業に臨みましょう。</p>	<p>プロジェクター 理解度確認テスト 27</p>
30	<p>【タイトル】 運動発達1（神経組織の成熟、乳児期の運動発達）</p> <p>【到達目標】 呼吸器疾患の概要と主要徴候について理解し説明できる。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワーク、「Google Classroom」を用いた双方向授業を実施します。</p> <p>【備考】 教科書 p 213-217 までの予習し授業に臨みましょう。</p>	<p>プロジェクター 理解度確認テスト 28</p>
31	<p>【タイトル】 運動発達2（歩行運動）、運動学習</p> <p>【到達目標】 運動発達における歩行運動、運動学習について理解し説明できる。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワーク、「Google Classroom」を用いた双方向授業を実施します。</p> <p>【備考】 教科書 p 217-227 までの予習し授業に臨みましょう。</p>	<p>プロジェクター 理解度確認テスト 29</p>
32	<p>【タイトル】 運動技能の過程、学習曲線動機づけ、学習の転移、記憶</p> <p>【到達目標】 呼吸器疾患の概要と主要徴候について説明できる。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワーク、「Google Classroom」を用いた双方向授業を実施します。</p> <p>【備考】 教科書 p 227-230 までの予習し授業に臨みましょう。</p>	<p>プロジェクター 理解度確認テスト 30</p>

33	<p>【タイトル】 まとめ1（練習問題1～4）</p> <p>【到達目標】柔道整復師国家試験における運動学範囲の出題形式や問題内容を理解し、正解を導くことができる。</p> <p>【授業形態】主に講義形式ですが、適宜ペアワーク、「Google Classroom」を用いた双方向授業を実施します。</p> <p>【備考】教科書p 1－230までの予習し授業に臨みましょう。</p>	<p>プロジェクター 理解度確認テスト1 練習問題1～4</p>
34	<p>【タイトル】 まとめ2（練習問題5～8）</p> <p>【到達目標】柔道整復師国家試験における運動学範囲の出題形式や問題内容を理解し、正解を導くことができる。</p> <p>【授業形態】主に講義形式ですが、適宜ペアワーク、「Google Classroom」を用いた双方向授業を実施します。</p> <p>【備考】教科書p 1－230までの予習し授業に臨みましょう。</p>	<p>プロジェクター 練習問題5～8</p>
35	<p>【タイトル】 まとめ3（練習問題9～12）</p> <p>【到達目標】柔道整復師国家試験における運動学範囲の出題形式や問題内容を理解し、正解を導くことができる。</p> <p>【授業形態】主に講義形式ですが、適宜ペアワーク、「Google Classroom」を用いた双方向授業を実施します。</p> <p>【備考】教科書p 1－230までの予習し授業に臨みましょう。</p>	<p>プロジェクター 練習問題9～12</p>
36	<p>【タイトル】 まとめ4（練習問題13～16）</p> <p>【到達目標】柔道整復師国家試験における運動学範囲の出題形式や問題内容を理解し、正解を導くことができる。</p> <p>【授業形態】主に講義形式ですが、適宜ペアワーク、「Google Classroom」を用いた双方向授業を実施します。</p> <p>【備考】教科書p 1－230までの予習し授業に臨みましょう。</p>	<p>プロジェクター 練習問題13～16</p>
37	<p>【タイトル】 まとめ5（練習問題17～20）</p> <p>【到達目標】柔道整復師国家試験における運動学範囲の出題形式や問題内容を理解し、正解を導くことができる。</p> <p>【授業形態】主に講義形式ですが、適宜ペアワーク、「Google Classroom」を用いた双方向授業を実施します。</p> <p>【備考】教科書p 1－230までの予習し授業に臨みましょう。</p>	<p>プロジェクター 練習問題17～20</p>
38	<p>【タイトル】 まとめ6（練習問題21～24）</p> <p>【到達目標】柔道整復師国家試験における運動学範囲の出題形式や問題内容を理解し、正解を導くことができる。</p> <p>【授業形態】主に講義形式ですが、適宜ペアワーク、「Google Classroom」を用いた双方向授業を実施します。</p> <p>【備考】教科書p 1－230までの予習し授業に臨みましょう。</p>	<p>プロジェクター 練習問題21～24</p>

〈2026年度〉

授業要項

科 目	高齢者の生理的特徴・変化	学科名	柔道整復	履修年次	3 年次
		教授法	講義	単位数コマ	1 単位 (13 コマ)
教 員	海野 俊平	領域	専門基礎	実務経験	有
教科書	生理学 公益社団法人全国柔道整復学校協会監修 改訂第4版				
参考書					
成績評価	定期テスト、出席などから判断する。				
評価基準	60点以上を合格とする。				
到達目標	人体の正常な構造と機能および高齢者における生理学的変化を理解し、設問に正しく答えられる。				
留意点					
授業外に必要な学習内容					
授業内容	大学教員として大学等での教育経験をもとに、「生理学」の内容を踏まえ、高齢者における生理的機能に変化、高齢者に特有の疾患とその発症メカニズム等について解説する。				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	老化とは何か	
2	加齢による皮膚と体の水分量の変化	
3	腎機能とその加齢による変化	
4	加齢による免疫機能の変化	
5	血圧調節機構と高血圧・動脈硬化	
6	血糖調節機構と糖尿病	
7	神経機能の加齢変化	
8	認知症と記憶の神経機構	
9	運動制御の加齢変化とパーキンソン病	
10	筋の加齢変化	
11	骨代謝と骨の加齢変化	
12	まとめ	
13	定期試験解説	

〈2026年度〉

授業要項

科 目	競技者の生理的特徴・変化	学科名	柔道整復	履修年次	3 年次
		教授法	講義	単位数コマ	1 単位 (13 コマ)
教 員	海野 俊平	領域	専門基礎	実務経験	有
教科書	生理学 公益社団法人全国柔道整復学校協会監修 改訂第4版				
参考書					
成績評価	定期テスト、出席などから判断する。				
評価基準	60点以上を合格とする				
到達目標	正常な運動器の構造と運動機能および競技者における生理学的変化を理解し、設問に正しく答えられる。				
留意点					
授業外に必要な学習内容					
授業内容	大学教員として大学等での教育経験をもとに、「生理学」の内容を踏まえ、競技者における生理的機能に変化、トレーニングの効果とそのメカニズム等について解説する。				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	身体と運動機能の発達	
2	骨格筋の収縮メカニズム	
3	骨格筋・心筋・平滑筋と骨格筋の収縮の特徴	
4	筋収縮のエネルギー源	
5	トレーニングとは何か	
6	筋力トレーニングの生理学	
7	持久力トレーニングの生理学	
8	競技者における感覚機能の変化	
9	競技者における運動機能の変化	
10	疲労のメカニズム	
11	運動と栄養	
12	まとめ	
13	定期試験解説	

〈2026年度〉

授業要項

科目	病理学	学科名	柔道整復	履修年次	2年次
		教授法	講義	単位数コマ	1単位(15コマ)
教員	加藤 正裕	領域	専門基礎	実務経験	有
教科書	病理学概論 全国柔道整復学校協会 監修 医歯薬出版				
参考書	標準病理学 医学書院(本学図書所蔵)				
成績評価	定期試験、出席状況などを総合的に評価する。				
評価基準	定期試験60点以上で合格、欠席日数が出席すべき日数の1/3を超えた場合は単位不認定とする。				
到達目標	疾病の原因、成り立ち、人体への影響などに対する理解を通して患者の抱えている健康障害を把握することに役立て、有効な施術につなげる。				
留意点	復習に時間をかける。				
授業外に必要な学習内容					
授業内容	歯科医師として大学等での教育経験をもとに、病理学総論を中心に、退行性病変、代謝障害、循環障害、進行性病変、炎症、免疫異常、腫瘍など、器官の違いをこえて共通にみられる病変について、映像資料・復習問題をまじえて授業を行う。				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	病理学とは、方法、疾病一般	
2	退行性病変（萎縮、変性）	
3	壊死、アポトーシス、死	
4	代謝障害（尿酸・カルシウム・色素・鉄・胆汁色素代謝障害、糖尿病）	
5	循環障害（充血、うっ血、虚血、出血、血栓症、塞栓症）	
6	循環障害（梗塞、浮腫、脱水症、高血圧症）	
7	進行性病変（肥大、過形成、再生、化生、創傷治癒）	
8	炎症（原因、形態的变化、経過による分類、形態による分類）	
9	免疫異常（免疫不全、自己免疫疾患）	
10	アレルギー（5型）	
11	腫瘍（定義、腫瘍細胞、組織構造、発育、生体への影響、発癌の原因）	
12	腫瘍（腫瘍の分類、主要な癌）	
13	先天異常（遺伝性疾患、染色体異常、胎児障害）	
14	病因	
15	定期本試験解説	

〈2026年度〉

授業要項

科 目	衛生学・公衆衛生学	学科名	柔道整復	履修年次	2 年次
		教授法	講義	単位数コマ	1 単位 (15 コマ)
教 員	加藤 正裕	領域	専門基礎	実務経験	有
教科書	衛生学・公衆衛生学 全国柔道整復学校協会 監修 南江堂				
参考書	図説 国民衛生の動向 厚生労働統計協会 編				
成績評価	定期試験、出席状況などを総合的に評価する。				
評価基準	定期試験60点以上で合格、欠席日数が出席すべき日数の1/3を超えた場合は単位不認定とする。				
到達目標	健康の維持・増進を支える公衆衛生の仕組みや活動について理解し、施術や健康教育を含めた地域社会における活動に活かすこと。				
留意点	復習に時間をかける。				
授業外に必要な学習内容					
授業内容	歯科医師としての大学等での教育経験をもとに、公衆衛生学の現代的な理念・健康の定義、疾病予防、健康の測定、健康管理、感染症対策、疫学などを中心に、映像資料・復習問題をまじえて授業を行う。				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	公衆衛生学とは、健康の定義	
2	疾病予防、公衆衛生学の理念	
3	健康管理、健康の測定	
4	疫学	
5	感染症対策、消毒	
6	環境衛生	
7	生活環境・食品衛生活動	
8	母子保健	
9	学校保健・産業保健	
10	成人・高齢者保健	
11	精神保健	
12	地域保健	
13	国際保健・衛生行政	
14	医療安全	
15	定期本試験解説	

〈2026年度〉

授業要項

科 目	リハビリテーション医学	学科名	柔道整復	履修年次	2 年次
		教授法	講義	単位数コマ	2 単位 (25 コマ)
教 員	中澤 住夫	領域	専門基礎	実務経験	有
教科書	リハビリテーション医学				
参考書	適宜資料を配布する				
成績評価	定期試験				
評価基準	60%以上				
到達目標	関連職種・機関と連携して対象者のリハビリテーションが行えるよう、リハビリテーション医学を理解し基礎知識を習得する				
留意点	理解に努め、わからないことは積極的に質問する				
授業外に必要な学習内容	授業後にその内容を振り返り、教科書や配布資料を読んで確認すること				
授業内容	大学教員としての教育経験をもとに、リハビリテーション専門職として医療・介護での臨床経験とリハビリテーション専門職養成教育の経験を踏まえ、リハビリテーションとは何か、その目的・対象・方法、リハビリテーション関連職種の役割とチームアプローチ、疾患別リハビリテーションの概要を教授する。				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	リハビリテーションとは、目的・対象の概要	
2	リハビリテーションとは、対象と方法の概要	
3	機能構造障害 関節可動域制限、原因・評価	
4	機能構造障害 関節可動域制限、治療的方法	
5	機能構造障害 筋力低下、原因・評価	
6	機能構造障害 筋力低下、治療的方法	
7	機能構造障害 中枢神経性運動障害とは	
8	機能構造障害 中枢神経性運動障害の評価と治療的方法	
9	機能構造障害 疼痛・廃用症候群・その他	
10	活動制限 日常生活活動・生活関連活動とは	
11	活動制限 ADLの評価	
12	活動制限に対する直接的アプローチ 基本姿勢動作の評価と方法①	

13	活動制限に対する直接的アプローチ 基本姿勢動作の評価と方法②	
14	活動制限に対する直接的アプローチ 歩行補助具	
15	活動制限に対する直接的アプローチ 身の回り動作の方法	
16	活動制限に対する直接的アプローチ 装具	
17	参加制約に対する直接的アプローチ	
18	リハビリテーション関連職種 医師・PT	
19	リハビリテーション関連職種 医師・OT・ST	
20	疾患別リハビリテーション 脳血管疾患	
21	疾患別リハビリテーション 運動器疾患・呼吸リハ	
22	疾患別リハビリテーション 心臓リハ・小児疾患	
23	疾患別リハビリテーション 精髓損傷・がん・その他	
24	まとめ①	
25	まとめ②	

(2026年度)

授業要項

科目	一般臨床医学 1 General Clinical Medicine 1	学科名	柔道整復	履修年次	2年次
		教授法	講義	単位数コマ	3単位(38コマ)
教員	宮坂 卓治	領域	専門基礎	実務経験	有
教科書	一般臨床医学(改訂第3版)全国柔道整復学校協会監修:医歯薬出版				
参考書	<p>・「ビジュアルノート(第5版)医療情報科学研究所(編集) 出版社:メディックメディア ¥5,280 イラストを見ただけで疾患が理解できるようになっていますので、家庭学習の際役に立ちます。</p> <p>・The Merck Manual(世界的に有名な医学テキスト)の日本語訳が無料で閲覧できます: 「http://merckmanual.jp/mmpej/index.html」X線画像等も無料で見る ことができますので、ぜひ利用して下さい。 その他、参考書、問題集等必要なものがある場合、事前に連絡します。 また、プリント等は「Google classroom」に適宜アップしますので、必要に応じ各自印刷してください。</p>				
成績評価	<p>定期試験(2回)90%、小テスト(35回程度)10%にて評価します。 定期試験の解答例・解説は、まとめの授業(試験終了後)においてフィードバックします。 小テスト(理解度確認テスト)の解答解説は毎時間行い、その都度フィードバックします。 ※授業形態は対面授業形態を予定しておりますが、状況により遠隔授業になる場合もあります。その場合の成績評価方法は、通常とは若干異なる場合も想定されます。変更があった場合、速やかにご連絡いたしますが、予めご了承ください。 尚、定期試験においては追再試験を実施しますが、小テストの追再試験は行いません。再試験は小テストの結果は加味されません。定期試験は授業時間外に行います。</p>				
評価基準	<p>前期試験と後期試験を行い、それぞれ100点満点の60点以上を合格といたします。 成績評価につきましては学則に準じます。</p>				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 代表的な内科的疾患を、主要臓器別に列挙できるようにしましょう。 2. これら内科的疾患の病態生理、診断、治療方法を説明することができるようにしましょう。 3. 現代医療における主要な課題について説明できるようにしましょう。 4. 柔道整復師国家試験における一般臨床医学範囲の出題形式や問題内容を理解し正解を導く事ができるようにしましょう。 				
留意点	<p>毎時間小テストを行いますので、授業の復習をしっかり行いましょう。 授業中の飲食、私語、携帯電話の操作など、他人の迷惑になる行為はやめましょう。 尚、授業形態は対面授業形態を予定しておりますが、状況により遠隔授業になる場合もあります。その場合の成績評価方法は、通常とは若干異なる場合も想定されます。変更があった場合、速やかにご連絡いたしますが、予めご了承ください。尚、授業の記録をとる目的で授業の動画を録画いたします。ご了承ください。 授業内容で質問等がある場合は、直接聞きに来るか、「Google Classroom」にも質問受付項目を設けますので、ご活用ください。また、授業で使用した資料も「Google classroom」にアップしますので、適宜お使いください(ペーパーレス化にもご協力ください)。尚、授業の記録をとる目的で授業の動画を録画いたします。ご了承ください。 メールアドレス: miyasaka@kowagakuen.ac.jp オフィスアワー: 毎週火曜日16:20~17:00</p>				
授業外に必要な学習内容	<p>解剖学、生理学、病理学が基礎となる科目です。1~2年次に学習した内容を見直して、授業に備えましょう。 予習として教科書に書かれている語句(これまでに学修したもの)の意味を調べてから授業に臨んでください。復習として、授業最後にその日の授業のまとめをします。その際、最重要箇所を示しますので指定されたものを理解したうえで覚えてください。その内容を、次の授業のはじめに小テストを行い理解度を確認します。予習には各回45分程度、復習にも各回45分程度の時間が必要と思われます。 「ディプロマポリシーとの関連性」 医療従事者として必要な知識の習得に該当します。</p>				
授業内容	<p>大学教員として大学等での教育経験を踏まえ、本科目では次のことを教授する。 内科領域(呼吸器疾患、循環器疾患、消化器疾患、代謝疾患、内分泌疾患)の代表的疾患について、病因・病態、症状、検査所見、治療法・予後を系統的に講義します。柔道整復領域の外傷・障害の鑑別診断を行う上で重要な内容になるため、しっかり学習しましょう。 椎間関節の捻挫と思っていたら、癌の骨転移だった。という様なケースは現場では決して稀なことではありません。将来の医療従事者として、緊張感を持って講義に臨まれることを期待します。 この授業は主に講義形式ですが、適宜ペアワーク、ディスカッションまたはグーグルクラスルームを使用したアクティブラーニングも実施します。</p>				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	<p>【タイトル】 授業の進め方と評価方法、呼吸器疾患の概要 【到達目標】 呼吸器疾患の概要と主要徴候について説明できる。 【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワーク、「Google Classroom」を用いた双方向授業を実施します。 【備考】 教科書 p 99 - 100 までの予習し授業に臨みましょう。</p>	プロジェクター

2	<p>【タイトル】 呼吸器疾患の主要徴候と各疾患 1</p> <p>【到達目標】 呼吸器疾患の主要徴候とかぜ症候群、インフルエンザ、急性気管支炎、慢性気管支炎、肺炎、肺結核、気管支喘息について理解し説明できる。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワーク、「Google Classroom」を用いた双方向授業を実施します。</p> <p>【備考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 p 1 0 0 - 1 0 7 までを予習し授業に臨みましょう。</p>	<p>プロジェクター 理解度確認テスト 1</p>
3	<p>【タイトル】 呼吸器疾患各疾患 2</p> <p>【到達目標】 COPD、肺癌について理解し説明できる。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワーク、「Google Classroom」を用いた双方向授業を実施します。</p> <p>【備考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 p 1 0 7 - 1 1 1 までを予習し授業に臨みましょう。</p>	<p>プロジェクター 理解度確認テスト 2</p>
4	<p>【タイトル】 呼吸器疾患各疾患 3、循環器疾患の主要徴候と各疾患 1</p> <p>【到達目標】 肺血栓塞栓症、気胸、循環器疾患の主要徴候、うっ血性心不全について理解し説明できる。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワーク、「Google Classroom」を用いた双方向授業を実施します。</p> <p>【備考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 p 1 1 1 - 1 1 6 までを予習し授業に臨みましょう。</p>	<p>プロジェクター 理解度確認テスト 3</p>
5	<p>【タイトル】 循環器疾患各疾患 2</p> <p>【到達目標】 狭心症、急性心筋梗塞、心臓弁膜症、先天性心疾患について理解し説明できる。 頭部・顔面部の視診について説明できる。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワーク、「Google Classroom」を用いた双方向授業を実施します。</p> <p>【備考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 p 1 1 6 - 1 2 1 までを予習し授業に臨みましょう。</p>	<p>プロジェクター 理解度確認テスト 4</p>
6	<p>【タイトル】 高血圧症、大動脈疾患、末梢動脈の疾患、静脈疾患</p> <p>【到達目標】 高血圧症、大動脈疾患、末梢動脈の疾患、静脈疾患について理解し説明できる。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワーク、「Google Classroom」を用いた双方向授業を実施します。</p> <p>【備考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 p 1 2 2 - 1 2 6 までを予習し授業に臨みましょう。</p>	<p>プロジェクター 理解度確認テスト 5</p>
7	<p>【タイトル】 不整脈、心室細動、消化器疾患総論</p> <p>【到達目標】 不整脈、心室細動、消化器疾患総論（主要徴候）について理解し説明できる。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワーク、「Google Classroom」を用いた双方向授業を実施します。</p> <p>【備考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 p 1 2 6 - 1 3 1 までを予習し授業に臨みましょう。</p>	<p>プロジェクター 理解度確認テスト 6</p>
8	<p>【タイトル】 消化器疾患各疾患 1（消化管疾患）</p> <p>【到達目標】 食道炎・食道潰瘍、食道癌、マロリーワイス症候群、食道静脈瘤、急性・慢性胃炎、胃・十二指腸潰瘍について理解し説明できる。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワーク、「Google Classroom」を用いた双方向授業を実施します。</p> <p>【備考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 p 1 3 2 - 1 3 6 までを予習し授業に臨みましょう。</p>	<p>プロジェクター 理解度確認テスト 7</p>

9	<p>【タイトル】 消化器疾患各疾患2（消化管疾患後半）</p> <p>【到達目標】 胃癌、潰瘍性大腸炎、過敏性腸症候群、大腸癌、虫垂炎、腸閉塞について理解し説明できる。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワーク、「Google Classroom」を用いた双方向授業を実施します。</p> <p>【備考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 p136-141までを予習し授業に臨みましょう。</p>	<p>プロジェクター 理解度確認テスト8</p>
10	<p>【タイトル】 消化器疾患各疾患3（肝・胆・膵疾患）</p> <p>【到達目標】 急性肝炎、慢性肝炎、アルコール性肝障害、薬物性肝障害、自己免疫性肝障害、脂肪肝について理解し説明できる。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワーク、「Google Classroom」を用いた双方向授業を実施します。</p> <p>【備考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 p142-147までを予習し授業に臨みましょう。</p>	<p>プロジェクター 理解度確認テスト9</p>
11	<p>【タイトル】 消化器疾患各疾患4（肝・胆・膵疾患の続き）</p> <p>【到達目標】 肝硬変、肝癌、胆石症・胆嚢炎について理解し説明できる。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワーク、「Google Classroom」を用いた双方向授業を実施します。</p> <p>【備考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 p147-152までを予習しましょう。</p>	<p>プロジェクター 理解度確認テスト10</p>
12	<p>【タイトル】 消化器疾患各疾患5（肝・胆・膵疾患の後半）、腹膜疾患、代謝疾患総論</p> <p>【到達目標】 胆嚢ポリープ、胆嚢癌、総胆管癌、急性膵炎、胆嚢癌、慢性膵炎、膵癌、急性腹膜炎、癌性腹膜炎について説明できる。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワーク、「Google Classroom」を用いた双方向授業を実施します。</p> <p>【備考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 p152-157までを予習し授業に臨みましょう。</p>	<p>プロジェクター 理解度確認テスト11</p>
13	<p>【タイトル】 代謝疾患各疾患1 糖尿病</p> <p>【到達目標】 糖尿病について理解し説明できる。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワーク、「Google Classroom」を用いた双方向授業を実施します。</p> <p>【備考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 p157-163までを予習し授業に臨みましょう。</p>	<p>プロジェクター 理解度確認テスト12</p>
14	<p>【タイトル】 代謝疾患各疾患2（糖尿病合併症、脂質異常症）</p> <p>【到達目標】 糖尿病合併症、脂質異常症について理解し説明できる。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワーク、「Google Classroom」を用いた双方向授業を実施します。</p> <p>【備考】 教科書 p163-168までの予習し授業に臨みましょう。</p>	<p>プロジェクター 理解度確認テスト13</p>

15	<p>【タイトル】 代謝疾患各疾患3（肥満症、メタボリック症候群、高尿酸血症）、内分泌疾患総論、</p> <p>【到達目標】 肥満症について理解し説明できる。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワーク、「Google Classroom」を用いた双方向授業を実施します。</p> <p>【備考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 p168-172までを予習し授業に臨みましょう。</p>	プロジェクター 理解度確認テスト14
16	<p>【タイトル】 内分泌疾患総論</p> <p>【到達目標】 ホルモンとは、ホルモンの作用機序、化学構造フィードバック機構について理解し説明できる。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワーク、「Google Classroom」を用いた双方向授業を実施します。</p> <p>【備考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 p172-176までを予習し授業に臨みましょう。</p>	プロジェクター 理解度確認テスト15
17	<p>【タイトル】 内分泌疾患各疾患1（間脳疾患、下垂体疾患、尿崩症、甲状腺疾患）</p> <p>【到達目標】 間脳疾患、下垂体疾患、尿崩症、甲状腺疾患について理解し説明できる。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワーク、「Google Classroom」を用いた双方向授業を実施します。</p> <p>【備考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 p176-180までを予習し授業に臨みましょう。</p>	プロジェクター 理解度確認テスト16
18	<p>【タイトル】 前期試験問題の解説、内分泌疾患各疾患2（甲状腺機能低下症、副甲状腺疾患）、</p> <p>【到達目標】 前期授業範囲を理解し説明できる。甲状腺機能低下症、副甲状腺疾患について理解し説明できる。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワーク、「Google Classroom」を用いた双方向授業を実施します。</p> <p>【備考】 前期試験の問題解説をおこないます。問題を持参してください。 教科書 p180-182までを予習し授業に臨みましょう。</p>	プロジェクター
19	<p>【タイトル】 内分泌疾患各疾患3（急性副腎不全、原発性アルドステロン症、副腎性器症候群、褐色細胞腫、性腺疾患）、血液造血器疾患総論</p> <p>【到達目標】 急性副腎不全、原発性アルドステロン症、副腎性器症候群、褐色細胞腫、性腺疾患について理解し説明できる。</p> <p>血液・造血器疾患総論について理解し説明できる。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワーク、「Google Classroom」を用いた双方向授業を実施します。</p> <p>【備考】 教科書 p182-187までを復習し試験に臨みましょう。</p>	プロジェクター 理解度確認テスト17
20	<p>【タイトル】 血液造血器疾患各疾患1（鉄欠乏性貧血、巨赤芽球性貧血、溶血性貧血、再生不良性貧血）、</p> <p>【到達目標】 鉄欠乏性貧血、巨赤芽球性貧血、溶血性貧血、再生不良性貧血について理解し説明できる。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワーク、「Google Classroom」を用いた双方向授業を実施します。</p> <p>【備考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 p188-191までを予習し授業に臨みましょう。</p>	プロジェクター 理解度確認テスト18

21	<p>【タイトル】 血液・造血器疾患各疾患2（急性白血病、慢性白血病、リンパ系疾患、出血性素因、血漿蛋白異常症）</p> <p>【到達目標】 急性白血病、慢性白血病、リンパ系疾患、出血性素因、血漿蛋白異常症について理解し説明できる。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワーク、「Google Classroom」を用いた双方向授業を実施します。</p> <p>【備考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 p191-197までを予習し授業に臨みましょう。</p>	プロジェクター 理解度確認テスト19
22	<p>【タイトル】 腎・尿路疾患総論、各疾患1（腎不全）</p> <p>【到達目標】 腎尿路疾患の概要と腎不全について理解し説明できる。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワーク、「Google Classroom」を用いた双方向授業を実施します。</p> <p>【備考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 p198-202までを予習し授業に臨みましょう。</p>	プロジェクター 理解度確認テスト20
23	<p>【タイトル】 腎・尿路疾患各疾患2（慢性腎臓病、透析）</p> <p>【到達目標】 慢性腎臓病と透析について理解し説明できる。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワーク、「Google Classroom」を用いた双方向授業を実施します。</p> <p>【備考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 p202-207までを予習し授業に臨みましょう。</p>	プロジェクター 理解度確認テスト21
24	<p>【タイトル】 腎・尿路疾患各疾患3（透析の合併症、腎移植、糸球体疾患）</p> <p>【到達目標】 透析の合併症、腎移植、糸球体疾患について理解し説明できる。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワーク、「Google Classroom」を用いた双方向授業を実施します。</p> <p>【備考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 p207-214までを予習し授業に臨みましょう。</p>	プロジェクター 理解度確認テスト22
25	<p>【タイトル】 腎・尿路疾患各疾患4（間質の疾患、尿路感染症、遺伝性腎疾患、全身疾患に伴う腎障害、泌尿器科的疾患）</p> <p>【到達目標】 イレウス、肝胆膵疾患について説明できる。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワーク、「Google Classroom」を用いた双方向授業を実施します。</p> <p>【備考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 p214-219までを予習し授業に臨みましょう。</p>	プロジェクター 理解度確認テスト23
26	<p>【タイトル】 腎・尿路疾患各疾患5（尿路結石）、神経疾患総論1（意識障害、認知症、筋力低下・麻痺）</p> <p>【到達目標】 尿路結石について理解し説明できる。 神経疾患の主要徴候（意識障害、認知症、筋力低下・麻痺）について理解し説明できる。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワーク、「Google Classroom」を用いた双方向授業を実施します。</p> <p>【備考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 p219-222までを予習し授業に臨みましょう。</p>	プロジェクター 理解度確認テスト24

27	<p>【タイトル】 神経疾患総論2（歩行障害、運動失調、不随意運動、嚥下障害、めまい、頭痛、感覚障害）</p> <p>【到達目標】 歩行障害、運動失調、不随意運動、嚥下障害、めまい、頭痛について理解し説明できる。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワーク、「Google Classroom」を用いた双方向授業を実施します。</p> <p>【備考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 p 2 2 2 - 2 2 8 までを予習し授業に臨みましょう。</p>	プロジェクター 理解度確認テスト 2 5
28	<p>【タイトル】 神経疾患各疾患1（脳血管障害、腫瘍性疾患）</p> <p>【到達目標】 糖尿病について理解し説明できる。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワーク、「Google Classroom」を用いた双方向授業を実施します。</p> <p>【備考】 教科書 一般臨床医学 p 2 2 8 - 2 3 1 までを予習し授業に臨みましょう。</p>	プロジェクター 理解度確認テスト 2 6
29	<p>【タイトル】 神経疾患各疾患2（機能的疾患、神経変性疾患）</p> <p>【到達目標】 感染性疾患、機能的疾患、神経変性疾患について理解し説明できる。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワーク、「Google Classroom」を用いた双方向授業を実施します。</p> <p>【備考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 一般臨床医学 p 2 3 1 - 2 3 3 までを予習し授業に臨みましょう。</p>	プロジェクター 理解度確認テスト 2 7
30	<p>【タイトル】 神経疾患各疾患3（神経変性疾患、炎症性神経疾患、神経免疫疾患、筋疾患）</p> <p>【到達目標】 神経変性疾患、炎症性神経疾患、神経免疫疾患、筋疾患について理解し説明できる。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワーク、「Google Classroom」を用いた双方向授業を実施します。</p> <p>【備考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 一般臨床医学 p 2 3 3 - 2 3 6 までを予習し授業に臨みましょう。</p>	プロジェクター 理解度確認テスト 2 8
31	<p>【タイトル】 感染症総論1（感染が成立する要因、宿主と病原体の相互関係、外因性感染と内因性感染、病原体の感染経路、感染症発症後の経過と感染形態）</p> <p>【到達目標】 感染が成立する要因、宿主と病原体の相互関係、外因性感染と内因性感染、病原体の感染経路、感染症発症後の経過と感染形態について理解し説明できる。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワーク、「Google Classroom」を用いた双方向授業を実施します。</p> <p>【備考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 一般臨床医学 p 2 3 6 - 2 4 1 までを予習し授業に臨みましょう。</p>	プロジェクター 理解度確認テスト 2 9
32	<p>【タイトル】 感染症総論2（市中感染と院内感染、日和見感染、感染症の診断、感染症の治療、感染対策の基本）、各疾患1（呼吸器感染症、尿路感染症、腸管感染症、中枢神経感染症）</p> <p>【到達目標】 市中感染と院内感染、日和見感染、感染症の診断、感染症の治療、感染対策の基本について理解し説明できる。 呼吸器感染症、尿路感染症、腸管感染症、中枢神経感染症について理解し説明できる。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワーク、「Google Classroom」を用いた双方向授業を実施します。</p> <p>【備考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 一般臨床医学 p 2 4 1 - 2 4 5 までを予習し授業に臨みましょう。</p>	プロジェクター 理解度確認テスト 3 0

33	<p>【タイトル】 感染症各疾患2（皮膚感染症、整形外科的感染症、性行為感染症）</p> <p>【到達目標】 皮膚感染症、整形外科的感染症、性行為感染症について理解し説明できる。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワーク、「Google Classroom」を用いた双方向授業を実施します。</p> <p>【備考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 一般臨床医学 p245-248までを予習し授業に臨みましょう。</p>	プロジェクター 理解度確認テスト31
34	<p>【タイトル】 感染症各疾患3（性行為感染症、その他の感染症）</p> <p>【到達目標】 性行為感染症、その他の感染症について理解し説明できる。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワーク、「Google Classroom」を用いた双方向授業を実施します。</p> <p>【備考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 一般臨床医学 p248-251までを予習し授業に臨みましょう。</p>	プロジェクター 理解度確認テスト32
35	<p>【タイトル】 リウマチ・膠原病・アレルギー総論、各疾患1（関節リウマチ、全身性エリテマトーデス）</p> <p>【到達目標】 リウマチ・膠原病・アレルギーの概要と関節リウマチ、全身性エリテマトーデスについて理解し説明できる。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワーク、「Google Classroom」を用いた双方向授業を実施します。</p> <p>【備考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 一般臨床医学 p252-256までを予習し授業に臨みましょう。</p>	プロジェクター 理解度確認テスト33
36	<p>【タイトル】 リウマチ・膠原病・アレルギー各疾患2（強皮症、レイノー現象、多発性筋炎・皮膚筋炎、シェーグレン症候群、ベーチェット病）</p> <p>【到達目標】 強皮症、レイノー現象、多発性筋炎・皮膚筋炎、シェーグレン症候群、ベーチェット病について理解し説明できる。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワーク、「Google Classroom」を用いた双方向授業を実施します。</p> <p>【備考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 一般臨床医学 p256-260までを予習し授業に臨みましょう。</p>	プロジェクター 理解度確認テスト34
37	<p>【タイトル】 後期試験の問題解説、リウマチ・膠原病・アレルギー各疾患3（結節性多発動脈炎、リウマチ性多発筋痛症、リウマチ熱）</p> <p>【到達目標】 後期試験範囲の内容を理解し説明できる。 結節性多発動脈炎、リウマチ性多発筋痛症、リウマチ熱について理解し説明できる。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワーク、「Google Classroom」を用いた双方向授業を実施します。</p> <p>【備考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 一般臨床医学 p207-214までを予習し授業に臨みましょう。</p>	プロジェクター
38	<p>【タイトル】 アレルギー、熱中症、一酸化炭素中毒</p> <p>【到達目標】 アレルギー、熱中症、一酸化炭素中毒について理解し説明できる。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワーク、「Google Classroom」を用いた双方向授業を実施します。</p> <p>【備考】 教科書 p114-214までを復習し試験に臨みましょう。 試験問題を見直しましょう。</p>	プロジェクター

(2026年度)

授業要項

科目	一般臨床医学Ⅱ General clinical medicine Ⅱ	学科名	柔道整復	履修年次	3年次
		教授法	講義	単位数コマ	2単位(25コマ)
教員	宮坂 卓治	領域	専門基礎	実務経験	有
教科書	一般臨床医学(改訂第3版)全国柔道整復学校協会監修:医歯薬出版				
参考書	・「ビジュアルノート(第5版)」医療情報科学研究所(編集) 出版社:メディックメディア ¥5,280 イラストを見ただけで疾患が理解できるようになっていますので、家庭学習の際役に立ちます。 ・The Merck Manual(世界的に有名な医学テキスト)の日本語訳が無料で閲覧できます: 「 http://merckmanual.jp/mmpej/index.html 」X線画像等も無料で見ることができるとのことですので、ぜひ利用して下さい。 その他、参考書、問題集等必要なものがある場合、事前に連絡します。 また、プリント等は「Google Classroom」に適宜アップしますので、必要に応じ各自印刷してください。				
成績評価	定期試験(2回)90%、小テスト(35回程度)10%にて評価します。 定期試験の解答例・解説は、まとめの授業(試験終了後)においてフィードバックします。 小テスト(理解度確認テスト)の解答解説は毎時間行い、その都度フィードバックします。 ※授業形態は対面授業形態を予定しておりますが、状況により遠隔授業になる場合もあります。その場合の成績評価方法は、通常とは若干異なる場合も想定されます。変更があった場合、速やかにご連絡いたしますが、予めご了承ください。 尚、定期試験においては追再試験を実施しますが、小テストの追再試験は行いません。再試験の得点には小テストは加味されません。定期試験は授業時間外に行います。				
評価基準	前期試験と後期試験を行い、それぞれ100点満点の60点以上を合格といたします。 成績評価につきましては学則に準じます。				
到達目標	1. 代表的な内科的疾患を、主要臓器別に列挙できるようにしましょう。 2. これら内科的疾患の病態生理、診断、治療方法を説明することができるようにしましょう。 3. 現代医療における主要な課題について説明できるようにしましょう。 4. 柔道整復師国家試験における一般臨床医学範囲の出題形式や問題内容を理解し正解を導く事ができるようにしましょう。				
留意点	毎時間小テストを行いますので、授業の復習をしっかり行いましょう。 授業中の飲食、私語、携帯電話の操作など、他人の迷惑になる行為はやめましょう。 尚、授業形態は対面授業形態を予定しておりますが、状況により遠隔授業になる場合もあります。その場合の成績評価方法は、通常とは若干異なる場合も想定されます。変更があった場合、速やかにご連絡いたしますが、予めご了承ください。 授業内容で質問等がある場合は、直接聞きに来るか、「Google classroom」にも質問受付項目を設けますので、ご利用ください。また、授業で使用した資料も「Google classroom」にアップしますので、適宜お使いください(ペーパーレス化にもご協力ください)。尚、授業の記録をとる目的で授業の動画を録画いたします。あらかじめご了承ください。 メールアドレス: miyasaka@kowagakuen.ac.jp オフィスアワー: 木曜日16:20~17:00				
授業外に必要な学習内容	解剖学、生理学、病理学、一般臨床医学Ⅰが基礎となる科目です。1~2年次に学習した内容を見直して、授業に備えましょう。 予習として教科書に書かれている語句(これまでに学修したもの)の意味を調べてから授業に臨んでください。復習として、授業最後にその日の授業のまとめをします。その際、最重要箇所を示しますので指定されたものを理解したうえで覚えてください。その内容を、次の授業のはじめに小テストを行い理解度を確認します。予習には各回45分程度、復習にも各回45分程度の時間が必要と思われます。 「ディプロマポリシーとの関連性」 医療従事者として必要な知識の習得に該当します。				
授業内容	大学教員として大学等での教育経験を踏まえ、本科目では次のことを教授する。 主に内科領域(血液・造血管器疾患、腎・泌尿器疾患、神経疾患、感染症、自己免疫疾患、アレルギー、環境要因による疾患)の代表的疾患について、病因・病態、症状、検査所見、治療法・予後を系統的に講義します。柔道整復領域の外傷・障害の鑑別診断を行う上で重要な内容になるため、しっかり学習しましょう。 椎間関節の捻挫と想っていたら、癌の骨転移だった。という様なケースは現場では決して稀なことではありません。将来の医療従事者として、緊張感を持って講義に臨まれることを期待します。 この授業は主に講義形式ですが、適宜ペアワーク、グループディスカッション、「Google classroom」を用いた双方向授業などを実施します(アクティブラーニングあり)。				

授業内容

日程	内容	使用機材等
1	【タイトル】血液・造血管器疾患総論、各疾患1 【到達目標】血液・造血管器疾患の主要徴候、赤血球疾患について理解し説明できる。 【授業形態】主に講義形式ですが、適宜ペアワーク、「Google Classroom」を用いた双方向授業を実施します。 【備考】教科書 p185-191までを予習し授業に臨みましょう。	プロジェクター

2	<p>【タイトル】血液・造血管疾患 各疾患 2 【到達目標】白血球疾患、リンパ系疾患、出血性素因、血漿蛋白異常について理解し説明できる。 【授業形態】主に講義形式ですが、適宜ペアワーク、「Google Classroom」を用いた双方向授業を実施します。 【備考】小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 p191-197までを予習し授業に臨みましょう。</p>	プロジェクター 理解度確認テスト 1
3	<p>【タイトル】腎・尿路疾患総論、各疾患 1 【到達目標】主要徴候、主要検査、腎不全について理解し説明できる。 【授業形態】主に講義形式ですが、適宜ペアワーク、「Google Classroom」を用いた双方向授業を実施します。 【備考】小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 p197-202までを予習し授業に臨みましょう。</p>	プロジェクター 理解度確認テスト 2
4	<p>【タイトル】腎・尿路疾患各疾患 2 【到達目標】慢性腎臓病、血液浄化療法について理解し説明できる。 【授業形態】主に講義形式ですが、適宜ペアワーク、「Google Classroom」を用いた双方向授業を実施します。 【備考】小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 p202-206までを予習し授業に臨みましょう。</p>	プロジェクター 理解度確認テスト 3
5	<p>【タイトル】腎・尿路疾患各疾患 3 【到達目標】透析の合併症、腎移植、急性糸球体腎炎、急速進行性糸球体腎炎、慢性腎炎、ネフローゼ症候群について理解し説明できる。 【授業形態】主に講義形式ですが、適宜ペアワーク、「Google Classroom」を用いた双方向授業を実施します。 【備考】小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 p206-214までを予習し授業に臨みましょう。</p>	プロジェクター 理解度確認テスト 4
6	<p>【タイトル】腎・尿路疾患各疾患 4 【到達目標】間質の疾患（間質性腎炎）、尿路感染症、遺伝性腎疾患、全身に伴う腎障害、泌尿器科的疾患（前立腺肥大、腎細胞癌、腎盂癌、尿路結石）について理解し説明できる。 【授業形態】主に講義形式ですが、適宜ペアワーク、「Google Classroom」を用いた双方向授業を実施します。 【備考】小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 p214-220までを予習し授業に臨みましょう。</p>	プロジェクター 理解度確認テスト 5
7	<p>【タイトル】神経疾患総論 1 【到達目標】神経疾患の主要徴候（意識障害、認知症、筋力低下・麻痺）について理解し説明できる。 【授業形態】主に講義形式ですが、適宜ペアワーク、「Google Classroom」を用いた双方向授業を実施します。 【備考】小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 p220-222までを予習し授業に臨みましょう。</p>	プロジェクター 理解度確認テスト 6
8	<p>【タイトル】神経疾患総論 2 【到達目標】神経疾患の主要徴候（歩行障害、運動失調、不随意運動、嚥下障害、めまい、頭痛）について説明できる。 【授業形態】主に講義形式ですが、適宜ペアワーク、「Google Classroom」を用いた双方向授業を実施します。 【備考】小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 p222-228までを予習し授業に臨みましょう。</p>	プロジェクター 理解度確認テスト 7

9	<p>【タイトル】神経疾患総論3、各疾患1 【到達目標】神経疾患の主要徴候（感覚障害）、脳血管障害、腫瘍性疾患について理解し説明できる。 【授業形態】主に講義形式ですが、適宜ペアワーク、「Google Classroom」を用いた双方向授業を実施します。 【備考】小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 p228-231までを予習し授業に臨みましょう。</p>	プロジェクター 理解度確認テスト8
10	<p>【タイトル】神経疾患各疾患2 【到達目標】感染性疾患（髄膜炎、脳炎）、機能的疾患、神経変性疾患について理解し説明できる。 【授業形態】主に講義形式ですが、適宜ペアワーク、「Google Classroom」を用いた双方向授業を実施します。 【備考】小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 p231-233までを予習し授業に臨みましょう。</p>	プロジェクター 理解度確認テスト9
11	<p>【タイトル】神経疾患各疾患3 【到達目標】パーキンソン病、運動ニューロン疾患、炎症性神経疾患、神経免疫疾患、筋疾患について理解し説明できる。 【授業形態】主に講義形式ですが、適宜ペアワーク、「Google Classroom」を用いた双方向授業を実施します。 【備考】小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 p233-236までを予習し授業に臨みましょう。</p>	プロジェクター 理解度確認テスト10
12	<p>【タイトル】感染症総論1 【到達目標】感染が成立する要因、宿主と病原体の相互関係外因性疾患と内因性疾患、病原体の感染経路、感染症発症後の経過と感染形態、市中感染と院内感染、日和見感染について理解し説明できる。 【授業形態】主に講義形式ですが、適宜ペアワーク、「Google Classroom」を用いた双方向授業を実施します。 【備考】小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 p236-242までを予習し授業に臨みましょう。</p>	プロジェクター 理解度確認テスト11
13	<p>【タイトル】前期試験の解答解説、感染症総論2（感染症の診断、感染症の治療、感染対策の基本）、各疾患1（呼吸器感染症、尿路感染症、腸管感染症、中枢神経感染症） 【到達目標】感染症の診断、感染症の治療、感染対策の基本を理解し説明できる。呼吸器感染症、尿路感染症、腸管感染症、中枢神経感染症について理解し説明できる。 【授業形態】主に講義形式ですが、適宜ペアワーク、「Google Classroom」を用いた双方向授業を実施します。 【備考】小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 p242-245までを予習し授業に臨みましょう。</p>	プロジェクター
14	<p>【タイトル】感染症各疾患2（皮膚感染症、整形外科領域感染症、性行為感染症） 【到達目標】皮膚感染症、整形外科領域感染症、性行為感染症（エイズ、梅毒）について理解し説明できる。 【授業形態】主に講義形式ですが、適宜ペアワーク、「Google Classroom」を用いた双方向授業を実施します。 【備考】小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 p245-248までを予習し授業に臨みましょう。</p>	プロジェクター 理解度確認テスト12
15	<p>【タイトル】感染症各疾患3 【到達目標】性行為感染症（淋病、非淋菌性尿道炎）、その他の感染症（破傷風、ウイルス感染症他）について理解し説明できる。 【授業形態】主に講義形式ですが、適宜ペアワーク、「Google Classroom」を用いた双方向授業を実施します。 【備考】小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 p248-251までを予習し授業に臨みましょう。</p>	プロジェクター 理解度確認テスト13

16	<p>【タイトル】リウマチ・膠原病・アレルギー総論、各疾患1 【到達目標】総論、関節リウマチ、全身性エリテマトーデスについて理解し説明できる。 【授業形態】主に講義形式ですが、適宜ペアワーク、「Google Classroom」を用いた双方向授業を実施します。 【備考】小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 p252-256までを予習し授業に臨みましょう。</p>	プロジェクター 理解度確認テスト14
17	<p>【タイトル】リウマチ・膠原病・アレルギー各疾患2 【到達目標】強皮症、多発性筋炎・皮膚筋炎、シェーグレン症候群、ベーチェット病、結節性多発動脈炎、リウマチ性多発筋痛症について理解し説明できる。 【授業形態】主に講義形式ですが、適宜ペアワーク、「Google Classroom」を用いた双方向授業を実施します。 【備考】小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 p256-262までを予習し授業に臨みましょう。</p>	プロジェクター 理解度確認テスト15
18	<p>【タイトル】リウマチ・膠原病・アレルギー各疾患3、アレルギー、環境因子による疾患 【到達目標】リウマチ熱、アレルギー、アナフィラキシーショック、熱中症、一酸化炭素中毒について理解し説明できる。 【授業形態】主に講義形式ですが、適宜ペアワーク、「Google Classroom」を用いた双方向授業を実施します。 【備考】小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 p262-265までを予習し授業に臨みましょう。</p>	プロジェクター 理解度確認テスト16
19	<p>【タイトル】まとめ1 【到達目標】一般臨床ⅠとⅡで学習した内容について理解し説明できる。 【授業形態】練習問題を行い、その解説をします。「Google Classroom」を用いた双方向授業を実施します。 【備考】これまでの学修した範囲で、苦手なところを予習し、練習問題で間違った個所の復習をしましょう。 教科書 p5-265までが範囲です。</p>	プロジェクター 理解度確認テスト17 練習問題
20	<p>【タイトル】まとめ2 【到達目標】一般臨床ⅠとⅡで学習した内容について理解し説明できる。 【授業形態】練習問題を行い、その解説をします。「Google Classroom」を用いた双方向授業を実施します。 【備考】これまでの学修した範囲で、苦手なところを予習し、練習問題で間違った個所の復習をしましょう。 教科書 p5-265までが範囲です。</p>	プロジェクター 練習問題
21	<p>【タイトル】まとめ3 【到達目標】一般臨床ⅠとⅡで学習した内容について理解し説明できる。 【授業形態】練習問題を行い、その解説をします。「Google Classroom」を用いた双方向授業を実施します。 【備考】これまでの学修した範囲で、苦手なところを予習し、練習問題で間違った個所の復習をしましょう。 教科書 p5-265までが範囲です。</p>	プロジェクター 練習問題
22	<p>【タイトル】まとめ4 【到達目標】一般臨床ⅠとⅡで学習した内容について理解し説明できる。 【授業形態】練習問題を行い、その解説をします。「Google Classroom」を用いた双方向授業を実施します。 【備考】これまでの学修した範囲で、苦手なところを予習し、練習問題で間違った個所の復習をしましょう。 教科書 p5-265までが範囲です。</p>	プロジェクター 練習問題

23	<p>【タイトル】まとめ5 【到達目標】一般臨床ⅠとⅡで学習した内容について理解し説明できる。 【授業形態】 練習問題を行い、その解説をします。「Google Classroom」を用いた双方向授業を実施します。 【備考】 これまでの学修した範囲で、苦手なところを予習し、練習問題で間違った個所の復習をしましょう。 教科書 p5-265までが範囲です。</p>	プロジェクター 練習問題
24	<p>【タイトル】まとめ6 【到達目標】一般臨床ⅠとⅡで学習した内容について理解し説明できる。 【授業形態】 練習問題を行い、その解説をします。「Google Classroom」を用いた双方向授業を実施します。 【備考】 これまでの学修した範囲で、苦手なところを予習し、練習問題で間違った個所の復習をしましょう。 教科書 p5-265までが範囲です。</p>	プロジェクター 練習問題
25	<p>【タイトル】まとめ7 【到達目標】一般臨床ⅠとⅡで学習した内容について理解し説明できる。後期試験の解答解説。 【授業形態】 後期試験の解答、解説。内容につて、理解し説明できる。練習問題を行い、その解説もします。「Google Classroom」を用いた双方向授業を実施します。 【備考】 これまでの学修した範囲で、苦手なところを予習し、練習問題で間違った個所の復習をしましょう。 教科書 p5-265までが範囲です。</p>	プロジェクター 練習問題

〈2026年度〉

授業要項

科 目	外科学	学科名	柔道整復	履修年次	2 年次
		教授法	講義	単位数コマ	3 単位 (38 コマ)
教 員	安藤 利泰	領域	専門基礎	実務経験	有
教科書	外科学概論(改定第4版、南江堂)				
参考書	標準外科学(医学書院):一部抜粋をプリントで配布します。				
成績評価	定期試験(2回の予定)				
評価基準	定期試験で60点以上、講義出席率				
到達目標	国家試験に向けた学力と日常診療に役立つ知識の習得				
留意点	2010年～2020年における標準的～平均的な外科学を展開する予定です。				
授業外に必要な学習内容	補助資料として、年間に約120枚のプリントを用意します。数回の小テストもあります。				
授業内容	整形外科医として病院での勤務経験をもとに、教室での通常講義、さらに動画供覧も考えます。				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	外科学とは、創傷とは	プリントを適宜配布
2	創傷治癒	プリントを適宜配布
3	熱傷、電撃傷、放射線障害	プリントを適宜配布
4	外科と炎症 (1)	プリントを適宜配布
5	外科と炎症 (2)	プリントを適宜配布
6	腫瘍：発がんと生物学的特徴	プリントを適宜配布
7	腫瘍：症状、診断、治療、予後	プリントを適宜配布
8	ショック (1)	プリントを適宜配布
9	ショック (2)、輸血・輸液 (1)	プリントを適宜配布
10	輸血・輸液 (2)	プリントを適宜配布
11	消毒と滅菌	プリントを適宜配布
12	手術 (機器その他)	プリントを適宜配布

13	手術（総論・手技）	プリントを適宜配布
14	麻酔	プリントを適宜配布
15	移植と免疫	プリントを適宜配布
16	前半のまとめ	プリントを適宜配布
17	出血と止血	プリントを適宜配布
18	予備日（試験）	プリントを適宜配布
19	蘇生法	プリントを適宜配布
20	脳外科総論	プリントを適宜配布
21	脳梗塞、頭部外傷	プリントを適宜配布
22	頸部疾患、甲状腺疾患	プリントを適宜配布
23	呼吸器の検査、肺癌	プリントを適宜配布
24	縦隔腫瘍、胸膜疾患	プリントを適宜配布
25	気胸、先天性心疾患	プリントを適宜配布
26	弁膜症	プリントを適宜配布
27	心臓腫瘍、心膜炎、虚血性心疾患	プリントを適宜配布
28	心筋症、大動脈瘤	プリントを適宜配布
29	大動脈炎、末梢血管疾患	プリントを適宜配布
30	乳腺疾患	プリントを適宜配布
31	胸部心臓血管のまとめ	プリントを適宜配布
32	腹部疾患総論、胃と食道	プリントを適宜配布
33	胃癌、大腸癌	プリントを適宜配布
34	肝・胆・膵	プリントを適宜配布
35	アッペ・ヘモ・ヘルニア	プリントを適宜配布
36	腹部・消化器疾患のまとめ	プリントを適宜配布
37	予備日	プリントを適宜配布
38	一年のまとめ	プリントを適宜配布

〈2026年度〉

授業要項

科 目	整形外科学	学科名	柔道整復	履修年次	3 年次
		教授法	講義	単位数コマ	3 単位 (38 コマ)
教 員	安藤 利泰	領域	専門基礎	実務経験	有
教科書	整形外科学(南江堂)				
参考書					
成績評価	定期試験の結果による。				
評価基準					
到達目標	整形外科学の基礎知識を習得し、将来臨床家として、医師との連携していく際に役立つ知識を学ぶ。				
留意点					
授業外に必要な学習内容					
授業内容	整形外科医として病院での勤務経験をもとに、整形外科学一般の診察、検査、治療について学び、次いで外傷、スポーツ整形外科、リハビリテーション医学の概要を理解し、運動器(骨、関節、筋肉、神経)の各疾患の病態とその治療法について知識を得る。				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	整形外科総論	プロジェクター
2	整形外科総論	プロジェクター
3	整形外科検査法	プロジェクター
4	整形外科的治療法	プロジェクター
5	骨・関節の損傷	プロジェクター
6	骨折の合併症	プロジェクター
7	スポーツ整形外科・リハビリテーション	プロジェクター
8	骨・関節感染症、軟部良性腫瘍	プロジェクター
9	骨腫瘍	プロジェクター
10	非感染性軟部・骨関節疾患 1	プロジェクター
11	非感染性軟部・骨関節疾患 2	プロジェクター
12	全身性の骨軟部疾患	プロジェクター

13	骨端症	プロジェクター
14	四肢循環不全	プロジェクター
15	神経・筋疾患（上肢）	プロジェクター
16	神経・筋疾患（下肢）、腕神経叢	プロジェクター
17	全身性神経・筋疾患	プロジェクター
18	まとめ演習 1	プロジェクター
19	まとめ演習 2	プロジェクター
20	脊髄腫瘍・損傷	プロジェクター
21	試験解説	プロジェクター
22	部位別各論 体幹	プロジェクター
23	部位別各論 胸部	プロジェクター
24	部位別各論 腰部	プロジェクター
25	部位別各論 肩 1	プロジェクター
26	部位別各論 肩 2	プロジェクター
27	部位別各論 肩 3	プロジェクター
28	部位別各論 肘	プロジェクター
29	部位別各論 前腕・手関節	プロジェクター
30	部位別各論 手	プロジェクター
31	部位別各論 骨盤・下肢 1	プロジェクター
32	部位別各論 骨盤・下肢 2	プロジェクター
33	部位別各論 大腿・膝関節	プロジェクター
34	部位別各論 膝関節	プロジェクター
35	部位別各論 下腿・足関節	プロジェクター
36	部位別各論 足趾	プロジェクター
37	試験解説	プロジェクター
38	最終講義	プロジェクター

〈2026年度〉

授業要項

科 目	鑑別診断学	学科名	柔道整復	履修年次	3 年次
		教授法	講義	単位数コマ	3 単位 (38 コマ)
教 員	安藤 利泰	領域	専門基礎	実務経験	有
教科書	「解剖学改訂版第2版」「柔道整復理論編改訂版第6版」「医療の中の柔道整復」				
参考書	配布資料				
成績評価	定期試験、小テスト、出席率を含めて総合評価する。				
評価基準					
到達目標	器質的な損傷について深く理解することで、非適応疾患に対する違和感を養う。				
留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・適宜に資料配布 ・安易に休まないこと 				
授業外に必要な学習内容	<ul style="list-style-type: none"> ・解剖の知識、用語の理解度 				
授業内容	<p>整形外科医として病院での勤務経験をもとに、以下のとおり講義を行う。外傷損傷、非外傷性疾患の知識を深めることで治療適応か否かの判断力を養うことを目的とする。そのために問診、視診、触診、神経学的検査、徒手検査などの評価でどこに注目するのか、見逃してはいけないポイント、非外傷性疾患の特徴などを踏まえながら講義していく。X線、CT、MRIなどの画像診断装置についてや、近年柔道整復師の現場で利用される機会が多い「超音波画像診断装置」の画像の特性、判断について講義を行う。臨床に出た際に柔道整復術の適応、不適応を判断する能力、医師、または他の医療従事者との連携をするための知識を習得する。</p>				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	オリエンテーション、柔道整復術の適否	プロジェクター
2	内臓疾患の投影としての疼痛	プロジェクター
3	腰痛を伴う疾患	プロジェクター
4	炎症	プロジェクター
5	血流障害を伴う損傷	プロジェクター
6	末梢神経損傷を伴う損傷	プロジェクター
7	脱臼骨折	プロジェクター
8	出血を伴う損傷	プロジェクター
9	病的骨折及び病的脱臼	プロジェクター
10	意識障害を伴う損傷	プロジェクター
11	脊髄症状のある損傷	プロジェクター
12	呼吸運動障害を伴う損傷	プロジェクター

13	内臓損傷の合併が疑われる損傷	プロジェクター
14	高エネルギー損傷	プロジェクター
15	医用画像の理解 (X線)	プロジェクター
16	CT・MRI・超音波 (総論)	プロジェクター
17	前期まとめ演習 1	プロジェクター
18	前期まとめ演習 2	プロジェクター
19	定期試験解答・解説	プロジェクター
20	X線撮影の実際 (体幹)	プロジェクター
21	X線撮影の実際 (肩)	プロジェクター
22	画像診断 (肘)	プロジェクター
23	画像診断 (手 1)	プロジェクター
24	画像診断 (手 2)	プロジェクター
25	画像診断 (股)	プロジェクター
26	画像診断 (膝)	プロジェクター
27	画像診断 (下腿)	プロジェクター
28	画像診断 (足関節)	プロジェクター
29	画像診断 (足)	プロジェクター
30	画像診断 (頸部 1)	プロジェクター
31	画像診断 (頸部 2 ~ 胸部)	プロジェクター
32	画像診断 (腰部)	プロジェクター
33	女性特有の疾患	プロジェクター
34	まとめ演習 1	プロジェクター
35	まとめ演習 2	プロジェクター
36	まとめ演習 3	プロジェクター
37	試験解説	プロジェクター
38	最終講義	プロジェクター

〈2026年度〉

授業要項

科 目	保険の仕組み	学科名	柔道整復	履修年次	3 年次
		教授法	講義	単位数コマ	1 単位 (13 コマ)
教 員	古川 清裕	領域	専門基礎	実務経験	有
教科書	全国柔道整復学校協会監修、『社会保障制度と柔道整復師の職業倫理』、医歯薬出版				
参考書	椋野美智子・田中耕太郎、『はじめての社会保障』、有斐閣アルマ				
成績評価	定期試験、レポートの提出状況				
評価基準	60点以上で合格とする。				
到達目標	様々な制度の基本的仕組みを理解するだけでなく、どうしたら、少子高齢化に突き進む日本の社会において、安心できる生活を維持していくかを考察できる能力を育てる。				
留意点	国家試験必修問題の領域であることも認知する。				
授業外に必要な学習内容	適宜、レポート課題の提出を求める場合がある。				
授業内容	柔道整復師として接骨院等での勤務経験を踏まえ、本科目では次のことを教授する。 行政用語はわかりにくいものです。わかりやすい表現に心がけます。「なぜ?」「どうして?」と考えていくうちに制度の構造を立体的につかめるように工夫します。誰を対象にした制度なのか、給付されるものは何か、そのファイナンス(財源)は誰が作り出すのか、誰が責任をもって運営しているのかななどをマクロな視点で理解することを求めます。 公衆衛生学での領域もカバーする。				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	社会保障の全体像、社会保障を学ぶ意義	プリント、プロジェクター
2	医療保険、高齢者医療制度	プリント、プロジェクター
3	国民医療費、医療供給体制、診療報酬	プリント、プロジェクター
4	生活保護、社会福祉制度、社会手当	プリント、プロジェクター
5	介護保険法その1	プリント、プロジェクター
6	介護保険法その2	プリント、プロジェクター
7	国民年金その1	プリント、プロジェクター
8	国民年金その2	プリント、プロジェクター
9	雇用保険、労災保険	プリント、プロジェクター
10	民間保険	プリント、プロジェクター
11	社会保障の歴史と構造その1	プリント、プロジェクター
12	社会保障の歴史と構造その2	プリント、プロジェクター
13	柔道整復師における療養費と療養費請求の具体的演習	プリント、プロジェクター

〈2026年度〉

授業要項

科目	関係法規	学科名	柔道整復	履修年次	1 年次
		教授法	講義	単位数コマ	1 単位 (13 コマ)
教員	古川 清裕	領域	専門基礎	実務経験	有
教科書	「関係法規2024年度版」(公財)全国柔道整復学校協会 医歯薬出版株式会社				
参考書	なし				
成績評価	試験(100%)				
評価基準	S評価(90点以上) A評価(80点以上) B評価(70点以上) C評価(60点以上) D評価(60点未満)				
到達目標	柔道整復師が業務に携わる上で必要となる「柔道整復師法」を理解し、業務を知る。医療従事者として必要となる医療福祉法規や、多数の規律事項を理解する。規則・罰則としてのみではなく「良質な医療の提供」するための体制として関係法規に関する知識を習得する。				
留意点	欠席はたとえ一回であっても貴重な学習機会を失うことになる。安易に休まない。				
授業外に必要な学習内容	復習が重要。授業を受けたその日のうちに①教科書を読み返す②ノートをもとめる③練習問題を見直す などをして欲しい。				
授業内容	柔道整復師として接骨院での勤務経験を踏まえ、本科目では基礎法学の学習、柔道整復師法の理解、さらにその他医療関係法規や社会福祉関係法規の理解に至るまで、多種多様な法規に関する応用能力の向上を図るため、質疑応答を繰り返す対話型授業を目指す。				

授業内容

日程	内 容	使用機材等
1	1. 法の意義と体系 p1 2. 関係法規 p3 3. 柔道整復師と患者の権利 p4	「関係法規」筆記具ノート
2	1. リスクマネジメントと医療事故調査制度 p5 2. 柔道整復師法の目的と定義 p9 3. 柔道整復師免許 p11	「関係法規」筆記具ノート
3	1. 柔道整復師名簿 p14	「関係法規」筆記具ノート
4	1. 柔道整復師の国家試験 p20 2. 柔道整復師の業務と業務範囲 p24	「関係法規」筆記具ノート
5	1. 柔道整復師の守秘義務 p27 2. 施術所の開設と休止 p29	「関係法規」筆記具ノート
6	1. 罰 則 p37 2. 指定登録機関と指定試験機関 p42 3. 免許と受験資格の特例 p45	「関係法規」筆記具ノート
7	1. 医事法規と医療制度 2. 衛生関係法規	「関係法規」筆記具ノート
8	1. 医療従事者の資格法 p47	「関係法規」筆記具ノート
9	1. 医療法 p66	「関係法規」筆記具ノート
10	1. 社会福祉関係法規 p87 2. 社会保険関係法規 p93	「関係法規」筆記具ノート
11	1. 個人情報保護関係 p101 2. まとめ	「関係法規」筆記具ノート
12	テスト	「関係法規」筆記具ノート
13	テスト解答説明	「関係法規」筆記具ノート

〈2026年度〉

授業要項

科 目	柔道整復の歴史	学科名	柔道整復	履修年次	1 年次
		教授法	講義	単位数コマ	1 単位 (13 コマ)
教 員	古川 清裕	領域	専門基礎	実務経験	有
教科書	「柔道整復理論改定第7版」(公財)全国柔道整復学校協会 南江堂				
参考書	なし				
成績評価	試験(100%)				
評価基準	S評価(90点以上) A評価(80点以上) B評価(70点以上) C評価(60点以上) D評価(60点未満)				
到達目標	柔道整復術の歴史を学び、卒業の前に学生各人が「柔道整復師」について明確なイメージを持てるようになることを目指す。柔道整復師として生涯学び続け、資質を向上させる。				
留意点	欠席はたとえ一回であっても貴重な学習機会を失うことになる。安易に休まない。				
授業外に必要な学習内容	復習が重要。授業を受けたその日のうちに①教科書を読み返す②ノートをまとめる③練習問題を見直す などをして欲しい。				
授業内容	柔道整復師として接骨院での勤務経験を踏まえ、本科目では次のことを教授する。 最初に医学史として、医療発達の歴史、続いて柔道整復術の中世から現代に至る歴史を学ぶ。さらに現在の業務範囲について学習を進める。柔道整復師を取り巻く法規制をからみた現況を確認する。「人体に加わる力」「損傷時に加わる力」についても改めて整理し、学習する。				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	医学の発達、柔道整復術と柔道整復師の歴史①	教科書・筆記道具
2	柔道整復術の体系化	教科書・筆記道具
3	柔道整復の業務範囲、心得と倫理綱領 p10	教科書・筆記道具
4	古代医学～17世紀医学	教科書・筆記道具
5	18世紀医学	教科書・筆記道具
6	19世紀医学	教科書・筆記道具
7	20世紀医学	教科書・筆記道具
8	中国医学	教科書・筆記道具
9	日本の古代医学	教科書・筆記道具
10	日本の医学と医療の歴史	教科書・筆記道具
11	まとめ	教科書・筆記道具
12	テスト	教科書・筆記道具
13	テスト解答説明	教科書・筆記道具

〈2026年度〉

授業要項

科目	職業倫理	学科名	柔道整復	履修年次	1 年次
		教授法	講義	単位数コマ	1 単位 (13 コマ)
教員	古川 清裕	領域	専門基礎	実務経験	有
教科書	「社会保障制度と柔道整復師の職業倫理」 (公財)全国柔道整復学校協会 医歯薬出版株式会社				
参考書	なし				
成績評価	試験(100%)				
評価基準	S評価(90点以上) A評価(80点以上) B評価(70点以上) C評価(60点以上) D評価(60点未満)				
到達目標	「インフォームド・コンセント」や「患者中心の医療」について、柔道整復医療の現場を踏まえつつ、柔道整復師の立場、患者の立場の双方の視点からリスクマネジメントができる職業人としての基礎を備える。				
留意点	欠席はたとえ一回であっても貴重な学習機会を失うことになる。安易に休まない。				
授業外に必要な学習内容	復習が重要。授業を受けたその日のうちに①教科書を読み返す②ノートをまとめる③練習問題を見直す などをして欲しい。				
授業内容	柔道整復師として接骨院での勤務経験を踏まえ、本科目では「医療従事者の職業倫理」「柔道整復師に必要な基本的倫理観と患者対応」「柔道整復師の社会的責任と対応」などについてテキストにある事例を適宜グループワークしながら教授する。				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	1. 医療従事者の職業倫理 p49 2. 柔道整復師に必要な基本的倫理観と患者への対応 p52	教科書・筆記道具
2	1. 柔道整復師の社会的責任と対応① p56	教科書・筆記道具
3	1. 柔道整復師の社会的責任と対応② p59	教科書・筆記道具
4	1. ケーススタディ p62	教科書・筆記道具
5	1. ケーススタディ p62	教科書・筆記道具
6	1. ケーススタディ p62	教科書・筆記道具
7	医療に携わる者として	教科書・筆記道具
8	医療に携わる者として	教科書・筆記道具
9	1. 法にみる柔道整復	教科書・筆記道具
10	2. 法にみる柔道整復	教科書・筆記道具
11	まとめ	教科書・筆記道具
12	テスト	教科書・筆記道具
13	テスト解答説明	教科書・筆記道具

〈2026年度〉

授業要項

科 目	柔道 1	学科名	柔道整復	履修年次	1 年次
		教授法	実技	単位数コマ	2 単位 (30 コマ)
教 員	和田 久	領域	専門基礎	実務経験	有
教科書	柔道(南江堂)				
参考書	国際柔道連盟試合審判規定				
成績評価	S・A・B・C・Dの5段階で評価する。				
評価基準	①学習態度②出席日数③実技試験④定期試験(筆記)により評価する。				
到達目標	礼法、受け身、柔道の動き・投げの形を習得する。				
留意点	怪我負傷防止のため装飾品類は外し長髪の場合は束ねる。やむを得ない事情(負傷等)以外は柔道着着用とする。				
授業外に必要な学習内容	適宜、柔道場にて自主練習を求める。				
授業内容	<p>教員として高等学校、中学校での勤務経験を踏まえ、本科目では柔道の礼法、基本動作、受身、投の形(手技・腰技・足技)、約束乱取の講義を行う。</p> <p>事故防止のため、毎回、準備運動、回転運動、受身を実施の上、前時の復習を行いながら段階を踏み授業を進める。</p>				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	事前説明・柔道着の着方・単独での後方受身(長座姿勢・中腰姿勢) 単独での横受身・礼法	柔道着
2	単独での後方受身、横受身・礼法・組み方・片膝をついた状態からの受身・膝車から膝をついて受身・体落から膝をついて受身	柔道着
3	単独での後方受身、横受身・礼法・組み方・柔道の動き・膝車、体落、大内刈、出足払、送足払(技と受身)	柔道着
4	前回り受身(片膝をついた状態から・中腰から・立位から)	柔道着
5	大腰、背負投、小内刈(技と受身の練習)	柔道着
6	一本背負投(技と受身の練習)・投の形(手技:背負投)	柔道着
7	投の形(腰技:浮腰)	柔道着
8	払腰(技と受身の練習)・投の形(腰技:払腰)	柔道着
9	内股(技と受身の練習)・投の形(足技:内股)	柔道着
10	投の形(手技:浮落)	柔道着
11	投の形(足技:支釣込足)	柔道着
12	実技試験(礼法・受身・形)	柔道着
13	実技試験(礼法・受身・形)	柔道着

14	定期試験(筆記)	柔道着
15	試験解説・前期のまとめ	柔道着
16	投の形(足技:送足払)	柔道着
17	投の形(腰技:釣込腰)	柔道着
18	投の形(手技:肩車)	柔道着
19	約束練習	柔道着
20	約束練習	柔道着
21	投の形(手技:浮落・背負投・肩車)	柔道着
22	投の形(腰技:浮腰・払腰・釣込腰)	柔道着
23	投の形(足技:送足払・支釣込足・内股)	柔道着
24	投の形総復習	柔道着
25	投の形総復習	柔道着
26	実技試験{受身・投げ形(手技)}	柔道着
27	実技試験{受身・投げ形(腰技)}	柔道着
28	実技試験{受身・投げ形(足技)}	柔道着
29	実技試験(約束練習)	柔道着
30	まとめ	柔道着

〈2026年度〉

授業要項

科 目	柔道 2	学科名	柔道整復	履修年次	2 年次
		教授法	実技	単位数コマ	2 単位 (30 コマ)
教 員	和田 久	領域	専門基礎	実務経験	有
教科書	柔道(南江堂)				
参考書	国際柔道連盟試合審判規定				
成績評価	S・A・B・C・Dの5段階で評価する。				
評価基準	①学習態度②出席日数③実技試験④定期試験(筆記)により評価する。				
到達目標	礼法、受け身、柔道の動き・投げの形を習得する。				
留意点	怪我負傷防止のため装飾品類は外し長髪の場合は束ねる。やむを得ない事情(負傷等)以外は柔道着着用とする。				
授業外に必要な学習内容	適宜、柔道場にて自主練習を求める。				
授業内容	<p>教員として高等学校、中学校での勤務経験を踏まえ、本科目では柔道の礼法、基本動作、受身、投の形(手技・腰技・足技)、約束乱取の講義を行う。</p> <p>事故防止のため、毎回、準備運動、回転運動、受身を実施の上、前時の復習を行いながら段階を踏み授業を進める。</p>				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	事前説明・前年度学習内容の確認(礼法・柔道の基本動作・受身等)	柔道着
2	投技解説・かかり練習・約束練習	柔道着
3	投技解説・かかり練習・約束練習	柔道着
4	固技解説	柔道着
5	固技解説	柔道着
6	投の形(手技)復習	柔道着
7	投の形(腰技)復習	柔道着
8	投の形(足技)復習	柔道着
9	投の形(手技)発表と確認	柔道着
10	投の形(腰技)発表と確認	柔道着
11	投の形(足技)発表と確認	柔道着
12	実技試験(礼法・受身・形・約束練習)	柔道着
13	実技試験(礼法・受身・形・約束練習)	柔道着

14	定期試験(筆記)	柔道着
15	試験解説・前期のまとめ	柔道着
16	投技解説・かかり練習・約束練習・自由練習	柔道着
17	投の形(手技)復習・約束練習・自由練習	柔道着
18	投の形(腰技)復習・約束練習・自由練習	柔道着
19	投の形(足技)復習・約束練習・自由練習	柔道着
20	投の形(手技)復習・約束練習	柔道着
21	投の形(腰技)復習・約束練習	柔道着、デジタイマー
22	投の形(足技)復習・約束練習	柔道着、デジタイマー
23	投の形(手技)発表と確認	柔道着
24	投の形(腰技)発表と確認	柔道着
25	投の形(足技)発表と確認	柔道着
26	実技試験{受身・投げ形(手技)}	柔道着
27	実技試験{受身・投げ形(腰技)}	柔道着
28	実技試験{受身・投げ形(足技)}	柔道着
29	実技試験(約束練習)	柔道着
30	まとめ	柔道着

(2026年度)

授業要項

科目	柔道 3	学科名	柔道整復	履修年次	3 年次
		教授法	実技	単位数コマ	1 単位 (15 コマ)
教員	和田 久	領域	専門基礎	実務経験	有
教科書	柔道(南江堂)				
参考書	認定実技審査要領・国際柔道連盟試合審判規定・講道館柔道DVD投の形				
成績評価	S・A・B・C・Dの5段階で評価する。				
評価基準	①学習態度②出席日数③実技試験により評価する。				
到達目標	認定実技審査(柔道実技)合格に向け、礼法、受け身、投げの形、約束乱取を習得する。				
留意点	怪我負傷防止、装飾品類は外し長髪の場合は束ねる。やむを得ない事情(負傷等)以外は柔道着着用とする。				
授業外に必要な学習内容	適宜、柔道場にて自主練習を求める。				
授業内容	<p>教員として高等学校、中学校での勤務経験を踏まえ、本科目では柔道の礼法、基本動作、受け身、投げの形(手技・腰技・足技)、約束乱取の講義を行う。</p> <p>事故防止のため、毎回、準備運動、回転運動、受け身を実施の上、前時の復習を行いながら段階を踏み授業を進める。</p>				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	事前説明・前年度学習内容の確認(礼法・柔道の基本動作・受け身等)	柔道着
2	投技解説・かかり練習・約束乱取	柔道着
3	投の形(手技)復習	柔道着
4	投の形(腰技)復習	柔道着
5	投の形(足技)復習	柔道着
6	投の形(手技)発表と確認	柔道着
7	投の形(腰技)発表と確認	柔道着
8	投の形(足技)発表と確認	柔道着
9	投の形 発表と確認、約束乱取	柔道着
10	投の形 発表と確認、約束乱取	柔道着
11	投の形 発表と確認、約束乱取	柔道着
12	総合練習①	柔道着
13	総合練習②	柔道着
14	総合練習③	柔道着
15	実技試験	柔道着

〈2026年度〉

授業要項

科目	基礎柔道整復学 1	学科名	柔道整復	履修年次	1 年次
		教授法	講義	単位数コマ	2 単位 (30 コマ)
教員	樋口 知行 山室 萌々菜	領域	専門	実務経験	あり
教科書	柔道整復理論編 83P～145P診察、治療法、外傷予防 競技者の外傷予防				
参考書	授業に合わせてプリントを配布します。				
成績評価	定期試験と出席日数により評価します。				
評価基準	前期試験と後期試験を行い、それぞれ100点満点の60点以上を合格とします。 成績評価については学則に準じます。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 競技者の特性を理解し説明することができる。 2. 外傷の発生要因や外傷予防を理解し説明することができる。 3. 各競技の特性を理解し競技ごとの外傷予防を立案することができる。 4. 柔道整復師が行う評価を適切に理解し、説明することができる。 5. 柔道整復師の治療法を理解し、説明することができる。 6. 柔道整復師国家試験における柔道整復学(柔道整復学理論P83～P145, 競技者の外傷予防全範囲)の問題内容を理解し、正答できる。 				
留意点	<p>授業中、クラスメイトへ迷惑になる行為はやめましょう。</p> <p>授業内容に疑問がある場合は、質問を積極的に行ってください。</p> <p>主に講義形式で実施しますが、講義内容に合わせグループワークや簡易的な実技を実施する場合があります。</p>				
授業外に必要な学習内容	<ul style="list-style-type: none"> ・授業前に予習として専門用語を事前に調べ理解してのぞむようにしてください。 ・授業内で重要な箇所を示します。なお、授業内容を身に付けるために予習時間および復習時間は各回45分ずつ必要になると思われます。 <p>「ディプロマポリシーとの関連性」 必要な知識・技術・技能及び態度を習得に該当します。</p>				
授業内容	<p>柔道整復師として整形外科及び接骨院、スポーツ現場での勤務経験をもとに競技者における外傷の予防方法や柔道整復師が行う治療法について講義します。必要に応じて実技等を実施することがあります。競技者の外傷予防や治療法は国家試験の出題範囲です。最終的には国家試験に必要な知識だけでなく、他の科目との関係や臨床的に必要な知識の獲得を目指します。</p>				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	オリエンテーション	プロジェクター
2	競技者の外傷予防概論（疫学）	プロジェクター 競技者の外傷予防
3	競技者の外傷予防のための実技 メディカルチェック—評価と測定①	プロジェクター 競技者の外傷予防
4	競技者の外傷予防のための実技 メディカルチェック—評価と測定②	プロジェクター 競技者の外傷予防
5	競技者の外傷予防のための実技 メディカルチェック—評価と測定③	プロジェクター 競技者の外傷予防
6	競技者の外傷予防のための実技 外傷予防に必要なコンディショニングの方法と実際①	プロジェクター 競技者の外傷予防
7	競技者の外傷予防のための実技 外傷予防に必要なコンディショニングの方法と実際②	プロジェクター 競技者の外傷予防
8	競技者の外傷予防のための実技 外傷予防に必要なコンディショニングの方法と実際③	プロジェクター 競技者の外傷予防
9	競技者の外傷予防のための実技 外傷予防に必要なコンディショニングの方法と実際④	プロジェクター 競技者の外傷予防

10	種目別の外傷予防とその実際 柔道における肩関節の外傷予防 水泳における体幹の障害予防	プロジェクター 競技者の外傷予防
11	種目別の外傷予防とその実際 バスケットボールにおける膝関節の外傷予防 サッカーにおける足関節の外傷予防	プロジェクター 競技者の外傷予防
12	種目別の外傷予防とその実際 成長期の外傷予防 高齢者の外傷予防	プロジェクター 競技者の外傷予防
13	運等とエネルギー代謝 運動と骨・筋肉	プロジェクター 競技者の外傷予防
14	運動と呼吸・循環 運動とホルモン 競技者の運動生理学的特徴	プロジェクター 競技者の外傷予防
15	競技者の外傷予防まとめ	プロジェクター 競技者の外傷予防
16	診察（問診・視診・触診・検査）	柔道整復理論
17	治療法概論 骨折の整復法（非観血的整復の要点）	柔道整復理論
18	脱臼の整復法（非観血的整復の要点） 軟部組織処置方法（初期処置）	柔道整復理論
19	固定法について①	柔道整復理論
20	固定法について②	柔道整復理論
21	手技療法（基本型・禁忌）	柔道整復理論
22	運動療法 他動運動・自動運動・等容性収縮・等張性収縮・等速性収縮 OKC・CKC・単関節運動・多関節運動	柔道整復理論
23	物理療法 電気療法・低周波・中周波・干渉波	柔道整復理論
24	物理療法 温熱療法・伝導熱療法・輻射熱療法・変換熱療法	柔道整復理論
25	物理療法 光線療法・寒冷療法・牽引療法	柔道整復理論
26	診察・治療法のまとめ①	柔道整復理論
27	診察・治療法のまとめ②	柔道整復理論
28	指導管理・外傷予防	柔道整復理論
29	診察のまとめ	柔道整復理論
30	総まとめ	柔道整復理論

〈2026年度〉

授業要項

科目	基礎柔道整復学 2	学科名	柔道整復	履修年次	1 年次
		教授法	講義	単位数コマ	2 単位 (30 コマ)
教員	相澤 佑樹	領域	専門	実務経験	有
教科書	柔道整復学・理論編改訂第7版 P46～64、P300～324 柔道整復学・実技書				
参考書					
成績評価	定期試験、出席日数を含めて評価する。				
評価基準	出欠席、筆記試験				
到達目標	柔道整復師に必要な脱臼の定義、分類、症状や治癒経過などの脱臼の基礎的な知識を習得する。上肢脱臼について学び、理解を深める。				
留意点	各試験60点以上で合格。欠席日数が出席すべき日数の1/3を超えた場合は単位不認定とする。				
授業外に必要な学習内容	教科書、配布資料で復習				
授業内容	柔道整復師として接骨院での勤務経験をふまえ、本科目では骨折総論、前腕部骨折、軟部組織損傷について授業を進める。				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	オリエンテーション、柔道整復学を学ぶ意味	教科書 パワーポイント プロジェクター
2	関節の構造と機能 P46～50	教科書 パワーポイント プロジェクター
3	関節の構造と機能、関節の損傷の概説 P46～52	教科書 パワーポイント プロジェクター
4	関節部損傷の概説 P46～52	教科書 パワーポイント プロジェクター
5	脱臼定義、発生頻度、分類 P52～56	教科書 パワーポイント プロジェクター
6	脱臼の症状、合併症、整復障害、経過と予後 P56～58	教科書 パワーポイント プロジェクター
7	関節構成組織損傷 P59～64	教科書 パワーポイント プロジェクター
8	関節構成組織損傷 P59～64	教科書 パワーポイント プロジェクター
9	胸鎖関節前方脱臼、肩鎖関節上方脱臼 P300～302	教科書 パワーポイント プロジェクター
10	胸鎖関節前方脱臼、肩鎖関節上方脱臼 P300～302	教科書 パワーポイント プロジェクター
11	肩関節脱臼分類 各発生機序、頻度、分類詳細 P303	教科書 パワーポイント プロジェクター

12	反復性肩関節脱臼 バンカート損傷、ヒル・サックス損傷 P307	教科書 パワーポイント プロジェクター
13	まとめ、復習 P46～54、300～307	教科書 パワーポイント プロジェクター
14	定期試験解説	教科書 パワーポイント プロジェクター
15	肩関節後方脱臼 発生機序、症状、整復 P307～309	教科書 パワーポイント プロジェクター
16	肩関節下方脱臼、肩関節上方脱臼 発生機序、症状、整復 P309～310	教科書 パワーポイント プロジェクター
17	肩関節脱臼総復習 発生機序、症状、整復 P303～310	教科書 パワーポイント プロジェクター
18	肘関節脱臼分類、前腕両骨脱臼 発生機序、症状、整復 P310～313	教科書 パワーポイント プロジェクター
19	橈骨頭単独脱臼、肘内障 発生機序、症状、整復 P313～314	教科書 パワーポイント プロジェクター
20	肘関節脱臼総復習 P310～314	教科書 パワーポイント プロジェクター
21	遠位橈尺関節脱臼 分類、発生機序、症状、整復 P315～316	教科書 パワーポイント プロジェクター
22	橈骨手根関節脱臼 発生機序、症状、整復 P316	教科書 パワーポイント プロジェクター
23	月状骨脱臼および月状骨周囲脱臼 発生機序、症状、整復、固定、後療 P316～317	教科書 パワーポイント プロジェクター
24	手根中手(CM)関節脱臼 発生機序、症状、整復 P318～319	教科書 パワーポイント プロジェクター
25	第1指中指指節(MP)関節脱臼 発生機序、症状、整復 P319～320	教科書 パワーポイント プロジェクター
26	第1指以外の中指指節(MP)関節脱臼 発生機序、症状、整復 P320～321	教科書 パワーポイント プロジェクター
27	近位指節間(PIP)関節脱臼 分類、発生機序、症状、整復 P322～323	教科書 パワーポイント プロジェクター
28	遠位指節間(DIP)関節脱臼 概説、発生機序、症状、整復 P324	教科書 パワーポイント プロジェクター
29	総まとめ P307～324	教科書 パワーポイント プロジェクター
30	定期試験解説	教科書 パワーポイント プロジェクター

〈2026年度〉

授業要項

科 目	基礎柔道整復学 3	学科名	柔道整復	履修年次	2 年次
		教授法	講義	単位数コマ	2 単位 (30 コマ)
教 員	横山 俊英	領域	専門	実務経験	有
教科書	柔道整復理論編・柔道整復実技編				
参考書	国家試験過去問題集				
成績評価	定期試験・出席日数・授業態度				
評価基準	定期試験基準をクリアすること。出席日数基準をクリアすること。				
到達目標	柔道整復術の頭部、体幹損傷に対する対処方法を中心に学び、臨床や国家試験に必要な知識をつける。				
留意点	配布するプリントが多いため、各自ファイルを用意して管理すること。				
授業外に必要な学習内容	予習復習として教科書を読む。				
授業内容	柔道整復師として接骨院での勤務経験を踏まえ、本科目では教科書とプリントを用いて大切な部分を重点的に、実技を踏まえた授業を行う。毎授業小テストを行い理解度の確認を行う。				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	1年間のガイダンス	プリント
2	頭部、顔面部の解剖と機能	プリント
3	頭部、顔面部の解剖と機能	プリント
4	頭部、顔面部の解剖と機能	プリント
5	頭部、顔面部の骨折	プリント
6	頭部、顔面部の骨折	プリント
7	顎関節脱臼	プリント
8	顎関節脱臼	プリント
9	顎関節脱臼	プリント
10	頸部の解剖と機能	プリント
11	頸部の解剖と機能	プリント
12	頸椎の骨折	プリント

13	頸椎の骨折	プリント
14	頸椎脱臼	プリント
15	まとめ	プリント
16	胸部、背部の解剖と機能	プリント
17	胸部、背部の解剖と機能	プリント
18	胸部、背部の解剖と機能	プリント
19	胸部の骨折	プリント
20	胸部の骨折	プリント
21	胸部の骨折	プリント
22	胸椎の骨折	プリント
23	胸椎の骨折	プリント
24	胸椎の脱臼	プリント
25	腰部、仙骨部の解剖と機能	プリント
26	腰部、仙骨部の解剖と機能	プリント
27	腰椎の骨折	プリント
28	腰椎の骨折	プリント
29	腰椎の脱臼	プリント
30	まとめ	プリント

〈2026年度〉

授業要項

科 目	基礎柔道整復学 4	学科名	柔整	履修年次	2 年次
		教授法	講義	単位数コマ	2 単位 (30 コマ)
教 員	宮前 勤	領域	専門	実務経験	有
教科書	柔道整復学理論編改訂第7版P208～244				
参考書	病気が見える整形外科、解剖学、運動学、整形外科の教科書				
成績評価	定期試験・出席日数・小テスト・宿題の提出状況				
評価基準	定期試験基準をクリアすること。出席日数基準をクリアすること。				
到達目標	鑑別診断できる能力。エビデンスに基づいた応急処置ができる能力				
留意点	各試験60点以上で合格。欠席日数が出席日数の1/3を超えた場合は単位不認定とする。				
授業外に必要な学習内容	グーグルクラウドサービスにアップした確認問題の実施 宿題の実施				
授業内容	柔道整復師として、介護老人保健施設および整形外科での実務経験を踏まえ、上肢骨折について教授する。 前座として機能解剖学(運動学)の授業を実施する。 整形外科学、リハビリテーション医学とリンクさせる。				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	橈骨骨幹部単独骨折 ガレアジ骨折	プリント
2	尺骨骨幹部単独骨折 モンテギア骨折	プリント
3	前腕両骨骨幹部骨折	プリント
4	コーレス骨折	プリント
5	コーレス骨折 復習	プリント
6	コーレス骨折合併症	プリント
7	スミス骨折、橈骨遠位端骨端線離開	プリント
8	橈骨遠位端辺縁部骨折 (掌側 Barton 骨折、掌側 Barton 骨折、ショウファー骨折)	プリント
9	橈骨遠位端部骨折 総合問題演習	プリント
10	手関節と手指の機能解剖その 1	プリント
11	手関節と手指の機能解剖その 2	プリント
12	中間テスト対策	プリント
13	手関節と手指の機能解剖その3	プリント
14	手関節と手指の機能解剖その4	プリント

15	舟状骨骨折	プリント
16	三角骨骨折、有鉤骨骨折、豆状骨骨折、月状骨骨折 大菱形骨骨折、有頭骨骨折	プリント
17	中手骨骨折その1(ボクサー骨折)	プリント
18	中手骨骨折その2(中手骨骨幹部骨折)	プリント
19	中手骨骨折その3(ベネット骨折)	プリント
20	基節骨骨折	プリント
21	中節骨骨折	プリント
22	末節骨骨折	プリント
23	マレットフィンガー	プリント
24	手指の変形	プリント
25	問題演習	プリント
26	問題演習	プリント
27	問題演習	プリント
28	修了試験対策	プリント
29	問題演習	プリント
30	問題演習	プリント

〈2026年度〉

授業要項

科 目	基礎柔道整復学 5	学科名	柔道整復	履修年次	3 年次
		教授法	講義	単位数コマ	2 単位 (30 コマ)
教 員	宮本 義豊	領域	専門	実務経験	有
教科書	解剖学 生理学 運動学 柔道整復学・理論編				
参考書	筋骨格系のキネシオロジー 解剖学カラーアトラス				
成績評価	定期試験、小テスト等を鑑み総合的に判断する				
評価基準	各試験60点以上で合格、59点以下および欠席日数により単位不認定とする				
到達目標	正常な運動器の形態・機能面を理解し生理学的な作用も把握できるようにする				
留意点	解剖学、生理学の知識も復習する				
授業外に必要な学習内容	日常生活に於いて身体の動きを意識して、解剖学的にも名称をしっかりと理解していく				
授業内容	柔道整復師として接骨院での勤務経験をもとに講義を進める。				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	運動学の意味と柔道整復学との関連	
2	身体運動の力学と損傷時の力の種類	
3	身体運動の力学と損傷時に影響する要素	
4	骨の構造と形態と機能	
5	関節の構造と機能、痛みの評価	
6	筋肉の構造と機能、損傷の分類	
7	神経細胞の構造と機能、伝達のしくみ	
8	中枢神経のしくみと末梢神経の分類	
9	運動単位とサルコメア	
10	反射のメカニズムと分類	
11	異常反射と神経伝導路	
12	生理学的見地からみた痛みへのアプローチ	

13	上肢帯の骨格、運動、生理的作用	
14	まとめ	
15	解答と解説	
16	下肢帯の骨格、運動、生理的作用	
17	運動とホルモン分泌的作用	
18	運動によるストレスとホルモン	
19	筋収縮のためのエネルギー	
20	運動と筋力、筋肥大	
21	運動と筋線維タイプ	
22	骨格筋のトレーニング作用	
23	運動と筋疲労	
24	運動と呼吸機能の調節	
25	運動と循環機能の調節	
26	運動とエネルギー代謝	
27	急性痛と慢性痛について	
28	まとめ	
29	解答と解説	
30	総復習	

〈2026年度〉

授業要項

科 目	臨床柔道整復学 1	学科名	柔道整復	履修年次	1 年次
		教授法	講義	単位数コマ	5 単位 (76 コマ)
教 員	宮前 勤 佐藤史人	領域	専門	実務経験	有
教科書	柔道整復学理論編改訂第7版P、柔整学校協会編、『柔道整復学・理論編 第6版』				
参考書	病気が見える整形外科、解剖学、運動学、整形外科の教科書				
成績評価	定期試験・出席日数・小テスト・宿題の提出状況				
評価基準	定期試験基準をクリアすること。出席日数基準をクリアすること。				
到達目標	柔道整復で行う各種治療法、指導管理の基礎を身につける。損傷の評価や外傷予防についても柔道整復師に必要な知識として習得する。				
留意点	各試験60点以上で合格。欠席日数が出席日数の1/3を超えた場合は単位不認定とする。				
授業外に必要な学習内容	ゲーグルクラウドサービスにアップした確認問題の実施 宿題の提出				
授業内容	病院および接骨院での勤務経験をもとに、講義を進める。上肢の軟部組織損傷は極めて頻度の高い損傷である。所見をしっかりと理解し、見逃すことのないようしっかり鑑別できる能力を身に付ける。前座として機能解剖学(運動学)の授業を実施する。整形外科学、リハビリテーション医学とリンクさせる。 ・筋、腱の損傷(総論) ・末梢神経損傷(総論) ・肩関節の軟部組織損傷 ・肘関節の軟部組織損傷 ・前腕部の軟部組織損傷 ・手関節部の軟部組織損傷 ・手指部の軟部組織損傷 ・上肢の絞扼性末梢神経障害				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	筋の機能 筋の障害学総論	教科書 パワーポイント プロジェクター
2	腱の損傷学(総論) 末梢神経障害(総論)	教科書 パワーポイント プロジェクター
3	肩甲帯の機能解剖その 1	教科書 パワーポイント プロジェクター
4	肩甲帯の機能解剖その 2	教科書 パワーポイント プロジェクター
5	肩関節の機能解剖その 1	教科書 パワーポイント プロジェクター
6	肩関節の機能解剖その 2	教科書 パワーポイント プロジェクター
7	肩関節の機能解剖その 3	教科書 パワーポイント プロジェクター
7	肩関節の機能解剖まとめ	教科書 パワーポイント プロジェクター
8	腱板断裂その 1	教科書 パワーポイント プロジェクター
9	腱板断裂その 2	教科書 パワーポイント プロジェクター
10	上腕二頭筋長頭腱損傷	教科書 パワーポイント プロジェクター
11	腱板損傷、上腕二頭筋長頭腱損傷まとめ	教科書 パワーポイント プロジェクター
13	ペネット損傷、SLAP損傷、リトルリーガー肩、	教科書 パワーポイント プロジェクター

12	肩甲上神経麻痺、クワドリラテラル症候群	教科書 パワーポイント プロジェクター
14	五十肩、石灰性腱炎、肩峰下インピンジメント症候群	教科書 パワーポイント プロジェクター
15	ルーズショルダー 肩関節の軟損まとめ	教科書 パワーポイント プロジェクター
16	肘関節の機能解剖その1	教科書 パワーポイント プロジェクター
16	肘関節の機能解剖その2	教科書 パワーポイント プロジェクター
17	野球肘。離断性骨軟骨炎、バンナー病	教科書 パワーポイント プロジェクター
18	上腕骨外側上顆炎(テニス肘)、後外側回旋不安定症、 肘関節部の軟損まとめ	教科書 パワーポイント プロジェクター
19	前腕コンパートメント症候群	教科書 パワーポイント プロジェクター
20	ド・ケルバン病、インターセクション症候群	教科書 パワーポイント プロジェクター
21	手関節と手指の機能解剖その1	教科書 パワーポイント プロジェクター
22	手関節と手指の機能解剖その2	教科書 パワーポイント プロジェクター
23	手関節と手指の機能解剖その3	教科書 パワーポイント プロジェクター
24	手関節と手指の機能解剖その4	教科書 パワーポイント プロジェクター
25	手関節と手指の機能解剖まとめ	教科書 パワーポイント プロジェクター
26	TFCC損傷、キーンベック病、マーデルング病	教科書 パワーポイント プロジェクター
27	母指MP関節側副靭帯損傷、4指PIP関節側副靭帯損傷 MP関節ロッキングフィンガー、ばね指	教科書 パワーポイント プロジェクター
28	デュブイトラン拘縮、ヘバーデン(Heberden)結節 ブシャール結節、	教科書 パワーポイント プロジェクター
29	スワンネック変形、ポタン穴変形	教科書 パワーポイント プロジェクター
30	手関節部と手指の軟損総まとめ	教科書 パワーポイント プロジェクター
31	橈骨神経麻痺、 公園のベンチ麻痺、橈骨神経管症候群、後骨間神経麻痺	教科書 パワーポイント プロジェクター
32	正中神経麻痺 円回内筋症候群、前骨間神経麻痺	教科書 パワーポイント プロジェクター
33	正中神経麻痺 手根管症候群	教科書 パワーポイント プロジェクター
34	尺骨神経麻痺 肘部管症候群	教科書 パワーポイント プロジェクター
35	尺骨神経麻痺 ギヨン管症候群	教科書 パワーポイント プロジェクター
36	上肢の絞扼性神経麻痺まとめ	教科書 パワーポイント プロジェクター
37	上肢の軟損 総まとめ	教科書 パワーポイント プロジェクター

38	上肢の軟損 総まとめ	教科書 パワーポイント プロジェクター
39	オリエンテーション、骨の構造について	プロジェクター
40	骨の損傷① 骨の性状、骨損傷の程度	プロジェクター
41	骨の損傷② 外力の働き方、骨折線の方向による分類	プロジェクター
42	骨折の症状① 一般外傷症状、固有症状①	プロジェクター
43	骨折の症状② 固有症状②、全身症状	プロジェクター
44	骨折の合併症① 併発症、続発症①	プロジェクター
45	骨折の合併症② 続発症②、後遺症	プロジェクター
46	小児骨折の特徴	プロジェクター
47	高齢者骨折の特徴	プロジェクター
48	骨折の治癒過程	プロジェクター
49	骨折総論のまとめ	プロジェクター
50	上肢帯（鎖骨・肩甲骨）の形態と機能	プロジェクター
51	鎖骨骨折① 特徴、発生機序	プロジェクター
52	鎖骨骨折② 症状、鑑別疾患	プロジェクター
53	鎖骨骨折③ 整復法、固定法	プロジェクター
54	肩甲骨骨折① 分類、発生機序	プロジェクター
55	肩甲骨骨折② 症状、整復、固定法	プロジェクター
56	上肢帯骨折のまとめ	プロジェクター
57	試験解説	プロジェクター
58	上腕骨の形態と機能	プロジェクター
59	上腕骨近位骨折① 分類、特徴	プロジェクター
60	上腕骨近位骨折② 骨頭骨折、解剖頸骨折	プロジェクター
61	上腕骨近位骨折③ 外科頸骨折①	プロジェクター
62	上腕骨近位骨折④ 外科頸骨折②	プロジェクター
63	上腕骨近位骨折⑤ 小・大結節骨折、骨端線離開	プロジェクター

64	上腕骨近位骨折のまとめ	プロジェクター
65	上腕骨骨幹部骨折①	プロジェクター
66	上腕骨骨幹部骨折②	プロジェクター
67	上腕骨遠位端部骨折② 顆上骨折①	プロジェクター
68	上腕骨遠位端部骨折② 顆上骨折②	プロジェクター
69	上腕骨遠位端部骨折③ 外顆骨折①	プロジェクター
70	上腕骨遠位端部骨折④ 外顆骨折②、内側上顆骨折	プロジェクター
71	上腕骨遠位端部骨折まとめ	プロジェクター
72	前腕近位端部骨折① 橈骨頭骨折①	プロジェクター
73	前腕近位端部骨折② 橈骨頭骨折② 肘頭骨折①	プロジェクター
74	前腕近位端部骨折③ 肘頭骨折②	プロジェクター
75	総まとめ	プロジェクター
76	試験解説	プロジェクター

〈2026年度〉

授業要項

科目	臨床柔道整復学2	学科名	柔道整復	履修年次	2年次
		教授法	講義	単位数コマ	5単位(76コマ)
教員	村山晶子 小野真理恵	領域	専門	実務経験	有
教科書	柔道整復学・理論編 改訂版第7版、柔道整復学・実技編 改訂版第2版、全国柔道整復学校協会監修「柔道整復学・理論編 改訂第7版」、「柔道整復学・実技編 改訂第2版」				
参考書	配布資料、解剖学・運動学の教科書				
成績評価	小テスト、出席、授業態度、定期試験を総合的に評価する。				
評価基準	定期試験60点以上で合格、欠席日数の1/3を超えた場合は単位不認定とする。 小テストの点数を加算する場合もある。				
到達目標	下肢の運動器疾患を学び、鑑別能力を身につける。臨床現場での確に判断できる知識の習得。				
留意点					
授業外に必要な学習内容	骨盤部、股関節部～足部の筋骨格系の解剖学的知識を予習すること。 教科書や授業プリントを参考に復習すること。 予習として授業予定の教科書の内容を読み、わからない単語については事前に調べるようにすること。 講義の理解度を確認する小テストを授業内に行うので、教科書や配布資料を参考に復習すること。				
授業内容	柔道整復師として接骨院での勤務経験を踏まえ、本科目では教科書とプリントを用いて理解を深める。 講義では解剖学・運動学をしっかり学ぶことで、損傷に対する臨床的な知識を身につける。 下肢の骨折についての講義を行う。解剖学・運動学などにより下肢の構造や機能を正しく理解したうえで、発生機序・症状などから鑑別する能力を学習し治療法へ繋げていく臨床的な知識を習得できるよう学習する。主に講義形式で実施するが、適宜グループワークおよびディスカッションを行う。				

授業内容

日程	内 容	使用機材等
1	ガイダンス	プロジェクター プリント
2	1年次復習	プロジェクター プリント
3	股関節部の解剖 1	プロジェクター プリント
4	股関節部の解剖 2	プロジェクター プリント
5	股関節脱臼 1	プロジェクター プリント
6	股関節脱臼 2	プロジェクター プリント
7	練習問題	プロジェクター プリント
8	膝関節部の解剖 1	プロジェクター プリント
9	膝関節部の解剖 2	プロジェクター プリント
10	膝関節部の解剖 3	プロジェクター プリント
11	膝蓋骨脱臼	プロジェクター プリント

12	膝関節脱臼	プロジェクター プリント
13	練習問題	プロジェクター プリント
14	足関節部の解剖 1	プロジェクター プリント
15	足関節部の解剖 2	プロジェクター プリント
16	足部・足趾部の脱臼	プロジェクター プリント
17	練習問題	プロジェクター プリント
18	練習問題	プロジェクター プリント
19	試験解説	プロジェクター
20	股関節部の軟部組織損傷 1	プロジェクター プリント
21	股関節部の軟部組織損傷 2	プロジェクター プリント
22	股関節部の軟部組織損傷 3	プロジェクター プリント
23	大腿部の解剖	プロジェクター プリント
24	大腿部の軟部組織損傷	プロジェクター プリント
25	膝関節部の解剖	プロジェクター プリント
26	膝関節部の軟部組織損傷 1	プロジェクター プリント
27	膝関節部の軟部組織損傷 2	プロジェクター プリント
28	膝関節部の軟部組織損傷 3	プロジェクター プリント
29	練習問題	プロジェクター プリント
30	下腿部の解剖	プロジェクター プリント
31	下腿部の軟部組織損傷 1	プロジェクター プリント
32	下腿部の軟部組織損傷 2	プロジェクター プリント
33	足部の解剖	プロジェクター プリント
34	足部の軟部組織損傷 1	プロジェクター プリント
35	足部の軟部組織損傷 2	プロジェクター

36	練習問題	プロジェクター プリント
37	試験解説	プロジェクター プリント
38	3年生に向けての演習 1	プロジェクター プリント
39	ガイダンス・下肢の骨折	プロジェクター
40	骨盤骨骨折	プロジェクター
41	骨盤骨骨折 (骨盤骨単独骨折)	プロジェクター
42	骨盤骨骨折 (骨盤骨単独骨折)	プロジェクター
43	骨盤骨骨折 (骨盤輪骨折)	プロジェクター
44	大腿骨骨折 (大腿骨近位端部骨折)	プロジェクター
45	大腿骨骨折 (大腿骨近位端部骨折)	プロジェクター
46	大腿骨骨折 (大腿骨近位端部骨折)	プロジェクター
47	大腿骨骨折 (大腿骨近位端部骨折)	プロジェクター
48	大腿骨骨折 (大腿部骨幹部骨折)	プロジェクター
49	大腿骨骨折 (大腿部骨幹部骨折)	プロジェクター
50	大腿骨骨折 (大腿部骨幹部骨折)	プロジェクター
51	大腿骨骨折 (大腿部遠位端部骨折)	プロジェクター
52	大腿骨骨折 (大腿部遠位端部骨折)	プロジェクター
53	大腿骨骨折 (大腿部遠位端部骨折)	プロジェクター
54	膝蓋骨骨折	プロジェクター
55	下腿骨骨折 (下腿骨近位端部骨折)	プロジェクター
56	まとめ	プロジェクター
57	試験解説	プロジェクター
58	下腿骨骨折 (下腿骨近位端部骨折)	プロジェクター
59	下腿骨骨折 (下腿骨近位端部骨折)	プロジェクター

60	下腿骨骨折（下腿骨骨幹部骨折）	プロジェクター
61	下腿骨骨折（下腿骨骨幹部骨折）	プロジェクター
62	下腿骨骨折（下腿骨骨幹部骨折）	プロジェクター
63	下腿骨骨折（下腿骨骨幹部骨折）	プロジェクター
64	下腿骨骨折（下腿骨遠位端部骨折および足関節の脱臼）	プロジェクター
65	下腿骨骨折（下腿骨遠位端部骨折および足関節の脱臼）	プロジェクター
66	下腿骨骨折（下腿骨遠位端部骨折および足関節の脱臼）	プロジェクター
67	下腿骨骨折（下腿骨遠位端部骨折および足関節の脱臼）	プロジェクター
68	下腿骨骨折（下腿骨遠位端部骨折および足関節の脱臼）	プロジェクター
69	足・足趾骨折（足根骨骨折）	プロジェクター
70	足・足趾骨折（足根骨骨折）	プロジェクター
71	足・足趾骨折（足根骨骨折）	プロジェクター
72	足・足趾骨折（足根骨骨折）	プロジェクター
73	足・足趾骨折（中足骨骨折）	プロジェクター
74	足・足趾骨折（趾骨骨折）	プロジェクター
75	まとめ	プロジェクター
76	試験解説	プロジェクター

〈2026年度〉

授業要項

科目	臨床柔道整復学 3	学科名	柔道整復	履修年次	3 年次
		教授法	講義	単位数コマ	5 単位 (76 コマ)
教員	柳樂聡治郎 佐藤史人	領域	専門	実務経験	有
教科書	「柔道整復学・実技編 第2版」、「柔道整復学・理論編 第7版」、解剖学 生理学 運動学 柔道整復学・理論編				
参考書	筋骨格系のキネシオロジー 解剖学カラーアトラス				
成績評価	試験(100%)だが、小テスト等を鑑み総合的に判断する。				
評価基準	S評価(90点以上) A評価(80点以上) B評価(70点以上) C評価(60点以上) D評価(60点未満) 各試験60点以上で合格、59点以下および欠席日数により単位不認定とする。				
到達目標	検査・整復・固定の基本を理解、習得し、現場で使える技術を身に着ける。				
留意点	欠席はたとえ一回であっても貴重な学習機会を失うことになる。安易に休まない。 解剖学、生理学の知識も復習する。				
授業外に必要な学習内容	<ul style="list-style-type: none"> ・柔道整復学の知識を頭の中で整理すること ・今まで学んだことを整理しておくこと ・分からないことをそのままにしないこと ・日常生活に於いて身体の動きを意識して、解剖学的にも名称をしっかりと理解していくこと 				
授業内容	<p>柔道整復理論(骨折)の発生機序、病態、整復法、固定法の理解を深める。 関連項目(脱臼、軟部組織損傷、整形外科疾患)との比較等を含め、その鑑別についても行う。 理解度に応じて、授業の順番を入れ替えて行うことがある 正常な運動器(骨・筋・関節構造組織)の形態・機能面を理解することで、臨床における外傷・障害に対する対応をできる判断力を身に付ける</p>				

授業内容

日程	内 容	使用機材等
1	骨折総論 分類	柔道整復学・理論編
2	骨折総論 症状 合併症(併発 続発 後遺症)	柔道整復学・理論編
3	小児骨折	柔道整復学・理論編
4	高齢者骨折	柔道整復学・理論編
5	骨折の治癒に影響を与える因子	柔道整復学・理論編
6	関節の損傷 脱臼総論	柔道整復学・理論編
7	脱臼総論	柔道整復学・理論編
8	16回国家試験問題過去問を解く	柔道整復学・理論編
9	17回国家試験問題過去問を解く	柔道整復学・理論編
10	18回国家試験問題過去問を解く	柔道整復学・理論編
11	19回国家試験問題過去問を解く	柔道整復学・理論編
12	20回国家試験問題過去問を解く	柔道整復学・理論編

13	21回国家試験問題過去問を解く	柔道整復学・理論編
14	22回国家試験問題過去問を解く	柔道整復学・理論編
15	23回国家試験問題過去問を解く	柔道整復学・理論編
16	24回国家試験問題過去問を解く	柔道整復学・理論編
17	25回国家試験問題過去問を解く	柔道整復学・理論編
18	26回国家試験問題過去問を解く	柔道整復学・理論編
19	27回国家試験問題過去問を解く	柔道整復学・理論編
20	28回国家試験問題過去問を解く	柔道整復学・理論編
21	29回国家試験問題過去問を解く	柔道整復学・理論編
22	30回国家試験問題過去問を解く	柔道整復学・理論編
23	31回国家試験問題過去問を解く	柔道整復学・理論編
24	32回国家試験問題過去問を解く	柔道整復学・理論編
25	33回国家試験問題過去問を解く	柔道整復学・理論編
26	34回国家試験問題過去問を解く	柔道整復学・理論編
27	シエーマ問題を解く	柔道整復学・理論編
28	シエーマ問題を解く	柔道整復学・理論編
29	長文問題 臨床問題を解く	柔道整復学・理論編
30	長文問題 臨床問題を解く	柔道整復学・理論編
31	長文問題 臨床問題を解く	柔道整復学・理論編
32	長文問題 臨床問題を解く	柔道整復学・理論編
33	絞扼性神経障害の問題を解く	柔道整復学・理論編
34	絞扼性神経障害の問題を解く	柔道整復学・理論編
35	絞扼性神経障害の問題を解く	柔道整復学・理論編
36	肩の問題を総合的に解く	柔道整復学・理論編
37	股関節周辺の問題を総合的に解く	柔道整復学・理論編
38	足周辺の問題を総合的に解く	柔道整復学・理論編
39	運動学の意味と柔道整復学との関連	プロジェクター、PC
40	身体運動の力学と損傷時の力の種類	プロジェクター、PC
41	身体運動の力学と損傷時に影響する要素	プロジェクター、PC

42	骨の構造と形態と機能	プロジェクター、PC
43	関節の構造と機能、痛みの評価	プロジェクター、PC
44	筋肉の構造と機能、損傷の分類	プロジェクター、PC
45	神経細胞の構造と機能、伝達のしくみ	プロジェクター、PC
46	中枢神経のしくみと末梢神経の分類	プロジェクター、PC
47	運動単位とサルコメア	プロジェクター、PC
48	反射のメカニズムと分類	プロジェクター、PC
49	異常反射と神経伝導路	プロジェクター、PC
50	生理学的見地からみた痛みへのアプローチ	プロジェクター、PC
51	上肢帯の骨格、運動、生理的作用	プロジェクター、PC
52	下肢帯の骨格、運動、生理的作用	プロジェクター、PC
53	運動とホルモン分泌の作用	プロジェクター、PC
54	運動によるストレスとホルモン	プロジェクター、PC
55	筋収縮のためのエネルギー	プロジェクター、PC
56	運動と筋力、筋肥大	プロジェクター、PC
57	まとめ	プロジェクター、PC
58	試験解説	プロジェクター、PC
59	運動と筋線維タイプ	プロジェクター、PC
60	骨格筋のトレーニング作用	プロジェクター、PC
61	運動と筋疲労	プロジェクター、PC
62	運動と呼吸機能の調節	プロジェクター、PC
63	運動と循環機能の調節	プロジェクター、PC
64	運動とエネルギー代謝	プロジェクター、PC
65	急性痛と慢性痛について	プロジェクター、PC
66	上肢の筋と神経支配 その①	プロジェクター、PC

67	上肢の筋と神経支配 その②	プロジェクター、PC
68	上肢の筋と神経支配 その③	プロジェクター、PC
69	上肢の筋と神経支配 その④	プロジェクター、PC
70	下肢の筋と神経支配 その①	プロジェクター、PC
71	下肢の筋と神経支配 その②	プロジェクター、PC
72	下肢の筋と神経支配 その③	プロジェクター、PC
73	下肢の筋と神経支配 その④	プロジェクター、PC
74	総復習	プロジェクター、PC
75	まとめ	プロジェクター、PC
76	試験解説	プロジェクター、PC

〈2026年度〉

授業要項

科目	臨床柔道整復学4	学科名	柔道整復	履修年次	3年次
		教授法	講義	単位数コマ	2単位(30コマ)
教員	村山 晶子	領域	専門	実務経験	有
教科書	柔道整復学・理論編 改訂版第6版、柔道整復学・実技編 改訂版第2版				
参考書	配布資料				
成績評価	小テスト、出席、授業態度、定期試験を総合的に評価する。				
評価基準	定期試験60点以上で合格、欠席日数の1/3を超えた場合は単位不認定とする。				
到達目標	外傷に関わる基礎知識や脱臼、軟部組織損傷を学び、柔道整復師として臨床や国家試験に必要な知識を身に着ける。				
留意点					
授業外に必要な学習内容	身体各部の解剖的な知識の予習 授業内容の復習				
授業内容	柔道整復師として接骨院での勤務経験を踏まえ、本科目では教科書とプリントを用いて授業を行う。 各ポイントを学ぶことで、損傷に対する臨床的な思考を身につける。				

授業内容

日程	内 容	使用機材等
1	ガイダンス	プロジェクター
2	脱臼の総論	プロジェクター
3	鎖骨部の脱臼	プロジェクター
4	肩関節脱臼	プロジェクター
5	肩関節脱臼、肘内障	プロジェクター
6	肘関節脱臼	プロジェクター
7	手関節部の脱臼	プロジェクター
8	手指部の脱臼、顎関節脱臼	プロジェクター
9	体幹部の脱臼、股関節脱臼	プロジェクター
10	膝蓋骨脱臼、膝関節脱臼	プロジェクター
11	足部の脱臼	プロジェクター
12	軟部組織損傷の総論	プロジェクター

13	肩部の軟部組織損傷	プロジェクター
14	上腕部の軟部組織損傷	プロジェクター
15	肘部の軟部組織損傷	プロジェクター
16	試験解説	プロジェクター
17	前腕部の軟部組織損傷	プロジェクター
18	手部の軟部組織損傷	プロジェクター
19	股部の軟部組織損傷	プロジェクター
20	大腿部の軟部組織損傷	プロジェクター
21	膝部の軟部組織損傷	プロジェクター
22	下腿の軟部組織損傷	プロジェクター
23	足部の軟部組織損傷	プロジェクター
24	頭部、顔面の軟部組織損傷	プロジェクター
25	頸部の軟部組織損傷	プロジェクター
26	胸部・背部・腰部の軟部組織損傷	プロジェクター
27	演習	プロジェクター
28	演習	プロジェクター
29	試験解説	プロジェクター
30	演習	プロジェクター

〈2026年度〉

授業要項

科 目	柔道整復実技 1	学科名	柔道整復学科	履修年次	1 年次
		教授法	実技	単位数コマ	5 単位 (76 コマ)
教 員	宮前 勤 村山晶子	領域	専門	実務経験	有
教科書	定期試験60点以上で合格、欠席日数の1/3を超えた場合は単位不認定とする。B5:O12+B5:O12				
参考書	配布資料、解剖学 改訂版第2				
成績評価	定期試験(口頭試問、実技試験または筆記試験)、小テスト、授業態度、出席日数等を踏まえ総合的に判断し評価する				
評価基準	定期試験60点以上で合格、欠席日数の1/3を超えた場合は単位不認定とする。運動器の形態、機能面を理解することで人体の構造への理解を深める。				
到達目標	・柔道整復施術の基本となる包帯の目的を理解し、基本包帯を中心に身体各所に応じた包帯固定を施せるようになる。				
留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・授業外でも復習をし、適宜練習すること。 ・欠席はたとえ一回であっても貴重な実習機会を失うことになる。安易に休まない。 ・実技授業は共同演習である、欠席したらクラスメートに迷惑をかけることになる。安易に休まない 				
授業外に必要な学習内容	<ul style="list-style-type: none"> ・解剖の知識、用語の理解度 ・この実習については復習が重要だが、実技内容を一人で復習することはとても難しい。クラス内で協力して、復習・練習の機会を積極的に持ってほしい。 				
授業内容	<p>柔道整復師として包帯など衛生材料を取り扱うために必要な知識・技術を身に着ける。 また施術者・患者の両方の立場を体験することで基本的な包帯法に加え、臨床現場での応用的な固定の考え方・包帯の技術を習得する。 本科目では教科書と配布資料を用いて授業を行う。 解剖の知識をもとに実際に身体に触れて触診技術を深めていく。</p> <p>※授業の進度によって内容の変更・追加・削減を行うことがある。</p>				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	三角巾による救命救急法その 1	三角巾
2	三角巾による救命救急法その 2	三角巾
3	三角巾による救命救急法その 3	三角巾
4	固定とは (目的・材料の種類)	包帯
5	巻軸包帯の基本法 (軸づくり、環行・螺旋・折転・蛇行・8字帯の巻き方)	包帯
6	前腕の被覆包帯：折転帯	包帯
7	手首の被覆包帯：麦穂帯	包帯
8	肘の被覆包帯：亀甲帯	包帯
9	肩の被覆包帯：麦穂帯	包帯
10	復習	包帯
11	指の包帯：隻指帯	包帯
12	指の包帯：全指帯	包帯

13	指の包帯：指頭包か帯	包帯
14	指の包帯：総指包か帯	包帯
15	頭部・顔面部の包帯：ヒポクラテス帽子帯・投石帯	包帯
16	復習	包帯
17	定期試験①（筆記試験）	包帯
18	試験の振り返り・復習	包帯
19	デゾー包帯（第1帯・第2帯）	包帯
20	デゾー包帯（第3帯・第4帯）	包帯
21	ヴェルポー包帯	包帯
22	ヴェルポー包帯・ジュール包帯	包帯
23	ジュール包帯	包帯
24	復習	包帯
25	下腿の被覆包帯：折転帯	包帯
26	大腿の被覆包帯：折転帯	包帯
27	股関節の被覆包帯：麦穂帯	包帯
28	膝の被覆包帯：亀甲帯	包帯
29	復習	包帯
30	足関節の被覆包帯：鍔帯・麦穂帯	包帯
31	踵の被覆包帯：亀甲帯・三節帯	包帯
32	足趾の被覆包帯：総趾包か帯	包帯
33	復習	包帯
34	テーピング	テーピング
35	テーピング	テーピング
36	復習	包帯
37	定期試験②	包帯
38	試験の振り返り・まとめ	

39	ガイドランス、肩甲骨	
40	鎖骨	
41	上腕骨	
42	橈骨・尺骨	
43	手・手指部 1	
44	手・手指部 2	
45	寛骨 1	
46	中間筆記試験	
47	寛骨 2、脊柱、股関節部	
48	大腿骨	
49	膝蓋骨、脛骨・腓骨	
50	足部 1	
51	足部 2	
52	復習	
53	中間実技試験	
54	試験講評	
55	試験返却、縫工筋	
56	縫工筋、大腿筋膜張筋、大殿筋	
57	中・小殿筋、梨状筋	
58	大腿四頭筋ハムストリングス	
59	前脛骨筋、長趾伸筋、長・短腓骨筋	
60	後脛骨筋、長趾屈筋、長母趾屈筋	
61	三角筋、大胸筋	
62	棘上筋、棘下筋	
63	小円筋、大円筋、肩甲下筋	
64	修了筆記試験	

65	広背筋、烏口腕筋	
66	僧帽筋、菱形筋	
67	肩甲挙筋、上腕三頭筋、上腕筋	
68	上腕三頭筋、肘筋	
69	前腕屈筋群 1 (円回内筋、長掌筋)	
70	前腕屈筋群 2 (橈・尺側手根屈筋、浅・深指屈筋、方形回内筋)	
71	前腕伸筋群 1 (腕橈骨筋、長・短橈側手根伸筋、総指伸筋)	
72	前腕伸筋群 2 (小指伸筋、尺側手根伸筋、回外筋)	
73	前腕伸筋群 3 (長母指外転筋、短母指伸筋、長母指伸筋、示指伸筋)	
74	復習	
75	修了試験	
76	試験講評	

〈2026年度〉

授業要項

科目	柔道整復実技 2	学科名	柔整	履修年次	2 年次
		教授法	実技	単位数コマ	5 単位 (76 コマ)
教員	宮前 勤 柳樂聡治郎	領域	専門	実務経験	有
教科書	柔整学校協会編、『柔道整復学・実技編 第2版』、『柔道整復学・実技編 第2版』、『柔道整復学・理論編 第7版』				
参考書	柔道整復学理論編第6版、機能解剖学的触診技術上肢編(メジカルビュー社)				
成績評価	筆記テスト、実技テスト				
評価基準	S評価(90点以上) A評価(80点以上) B評価(70点以上) C評価(60点以上) D評価(60点未満) 60点以上を合格とする。				
到達目標	評価、診断ができる。検査・整復・固定の基本を理解、習得し、現場で使える技術を身に付ける。				
留意点	欠席はたとえ一回であっても貴重な学習機会を失うことになる。安易に休まない。 欠席なきよう厳しく指導する。身だしなみも徹底して指導する。				
授業外に必要な学習内容	<ul style="list-style-type: none"> ・下肢の解剖学、柔道整復学の知識 ・実技内容を一人で復習することはとても難しいため、クラス内で協力して、復習・練習を積極的に行うこと、実技は一人ではできない。すすんで他の人と協力すること。 柔道整復学 理論編の復習を求める。				
授業内容	柔道整復師として、介護老人保健施設および整形外科での実務経験を踏まえ、上肢の骨折・脱臼に対する診察、整復、固定について教授する。 3年時の認定実技試験をみすえて授業を展開する。 柔道整復理論(骨折・脱臼などの)の発生機序、病態、整復法、固定法の理解を深める。				

授業内容

日程	内容	使用機材等
1	鎖骨骨折 診察、整復法その 1	
2	鎖骨骨折 固定法その1	
3	鎖骨骨折 固定法その2	
4	肩鎖関節脱臼 診察、整腹法	
5	肩鎖関節脱臼 固定法	
6	上腕骨外科頸骨折外転型 診察、整復	
7	上腕骨外科頸骨折外転型 固定法	
8	上腕骨外科頸骨折外転型 固定法	
9	肩関節脱臼 診察、整復その 1	
10	肩関節脱臼 整復その 2、固定その 1	
11	肘関節後方脱臼整腹法	
12	肘関節後方脱臼固定法	
13	中間定期テスト(筆記)	
14	PIP関節背側脱臼 整復、固定	
15	母指MP関節脱臼	
16	金属シーネ作成	
17	コーレス骨折 整復その 1	
18	コーレス骨折 整復その 2 コーレス骨折 固定材料準備	
19	コーレス骨折 固定	
20	スミス骨折 固定	

21	舟状骨骨折 診察、整復	
22	舟状骨骨折 固定	
23	ボクサー骨折 診察、整復	

24	ボクサー骨折 固定	
25	基節骨骨折 診察 整復	
26	基節骨骨折 固定	
27	中節骨骨折 診察、整復	
28	中節骨骨折 固定	
29	後期実技試験ガイダンス	
30	後期実技試験対策	
31	後期実技試験	
32	腱板損傷、上腕二頭筋長頭腱損傷 徒手検査法	
33	ROM測定法その1	
34	ROM測定法その2	
35	ROM測定法その3	
36	MMT測定法その1	
37	MMT測定法その2	
38	MMT測定法その3	
39	オリエンテーション	柔道整復学理論編・実技編
40	股関節脱臼機序 整復	柔道整復学理論編・実技編
41	股関節脱臼機序ダッシュボード損症を考える 整復固定	柔道整復学理論編・実技編
42	股関節後方脱臼整復 牽引法 回転法	柔道整復学理論編・実技編
43	股関節後方脱臼回転法肩関節脱臼にも同様の名称の整復法がある	柔道整復学理論編・実技編
44	股関節前方脱臼デパルマ法 コッフェル法	柔道整復学理論編・実技編
45	膝蓋骨脱臼整復 膝蓋骨について素因や習慣性脱臼 位置性脱臼を覚える	柔道整復学理論編・実技編
46	下腿骨骨幹部骨折クラーメルシーネを作る人間の体にフィットさせることを目標とする	柔道整復学理論編・実技編
47	下腿骨骨幹部骨折固定包体包を駆使してクラーメルを固定す	柔道整復学理論編・実技編
48	下腿骨骨幹部骨折 すべて麦穂帯で巻く	柔道整復学理論編・実技編
49	大腿骨頸部骨折 脆弱性骨折とは言葉の意味を知る	柔道整復学理論編・実技編
50	ホイットマン外転整復法 ヒールパルムテスト	柔道整復学理論編・実技編
51	ホイットマン外転整復法 ヒールパルムテスト	柔道整復学理論編・実技編
52	股関節牽引法・コッフェル法・膝蓋骨脱臼・大腿骨頸部骨折整復練習	柔道整復学理論編・実技編
53	実技試験を実施する	柔道整復学理論編・実技編
54	実技試験評価総合評価前期の振り返りと復習	柔道整復学理論編・実技編
55	拇指背側脱臼について基本手指脱臼と同様である	柔道整復学理論編・実技編
56	踵骨骨折整復法（大本法）	柔道整復学理論編・実技編
57	ハムストリングス損傷 認定実技とは	柔道整復学理論編・実技編
58	ハムストリングス損傷 チャーリーホース包帯固定	柔道整復学理論編・実技編

59	大腿四頭筋打撲	柔道整復学理論編・実技編
60	膝の触診膝蓋骨・裂隙・跳動・内側靭帯損傷	柔道整復学理論編・実技編
61	膝の触診膝蓋骨・裂隙・跳動・内側靭帯・外側靭帯・足背動脈	柔道整復学理論編・実技編

62	膝十字靭帯損傷ラックマン・サグサイン・前方引き出し	柔道整復学理論編・実技編
63	膝半月板損傷マックマレー 圧アプレー	柔道整復学理論編・実技編
64	足の解剖 二分靭帯・下駄骨折の部位	柔道整復学理論編・実技編
65	足関節捻挫 内外果骨折触診の意味	柔道整復学理論編・実技編
66	足外側靭帯局所副子固定	柔道整復学理論編・実技編
67	足外側靭帯局所副子固定 トング型 局所副子固定	柔道整復学理論編・実技編
68	アキレス腱断裂の固定法	柔道整復学理論編・実技編
69	膝部軟部組織検査法全般	柔道整復学理論編・実技編
70	下腿三頭筋肉ばなれ	柔道整復学理論編・実技編
71	膝関節 x サポートテーピング	柔道整復学理論編・実技編
72	後期実技試験	柔道整復学理論編・実技編
73	試験の振り返り・復習	柔道整復学理論編・実技編
74	足関節テーピング固定	柔道整復学理論編・実技編
75	下駄骨折固定具作製 熱可塑性素材を使う	柔道整復学理論編・実技編
76	包帯固定上肢の冠名骨折を復習	柔道整復学理論編・実技編

〈2026年度〉

授業要項

科目	柔道整復実技3	学科名	柔道整復	履修年次	3年次
		教授法	実技	単位数コマ	2単位(30コマ)
教員	樋口 知行	領域	専門	実務経験	有
教科書	柔道整復学理論編(南江堂), 柔道整復実技(南江堂), 包帯固定学				
参考書	プリント				
成績評価	実技試験と卒業見込み判定試験の結果で成績評価を行う。				
評価基準	実技試験60点以上で合格、欠席日数が出席日数の1/3を超えた場合は単位不認定する。				
到達目標	上肢・下肢・体幹の検査法を適切に説明し、実施することができる。				
留意点	欠席はたとえ1回であっても貴重な実習機会を失うことになる。安易に休まない。				
授業外に必要な学習内容	授業中に配布したプリントの復習。 この実習については復習が重要だが、実技内容を一人で復習することはとても難しい。 クラス内で協力して、復習・練習の機会を積極的に持ってほしい。				
授業内容	基本包帯法から確認し、柔道整復実技編に記載されている固定法や整復法を中心に確認していく。 また、柔道整復学理論編と柔道整復学実技編に記載されている徒手検査法を学ぶ。 それ以外にも、臨床で実際に使える整復法や固定法や徒手検査法を学ぶ。				

授業内容

日程	内 容	使用機材等
1	オリエンテーション	プロジェクター
2	上肢検査法及び柔道整復術に必要な機能解剖	プロジェクター
3	上肢の検査法①	プロジェクター
4	上肢の検査法②	プロジェクター
5	上肢の検査法③	プロジェクター
6	上肢の検査法 練習	プロジェクター
7	上肢の検査法 練習	プロジェクター
8	上肢の検査法 練習	プロジェクター
9	上肢の検査法の試験	プロジェクター
10	上肢の検査法 試験総評・復習	プロジェクター
11	下肢の検査法及び柔道整復術に必要な機能解剖	プロジェクター
12	下肢の検査法①	プロジェクター

13	下肢の検査法②	プロジェクター
14	下肢の検査法③	プロジェクター
15	下肢の検査法 練習	プロジェクター
16	体幹の検査法及び柔道整復術に必要な機能解剖①	プロジェクター
17	体幹の検査法及び柔道整復術に必要な機能解剖②	プロジェクター
18	体幹の検査法①	プロジェクター
19	体幹の検査法②	プロジェクター
20	体幹の検査法③	プロジェクター
21	体幹の検査法 練習	プロジェクター
22	下肢・体幹の検査法 復習	プロジェクター
23	総合練習①	プロジェクター
24	総合練習②	プロジェクター
25	総合練習③	プロジェクター
26	下肢・体幹の検査法 試験	プロジェクター
27	上肢・下肢・体幹の総復習	プロジェクター
28	柔道整復師に必要な機能解剖①	プロジェクター
29	柔道整復師に必要な機能解剖②	プロジェクター
30	総まとめ	プロジェクター

〈2026年度〉

授 業 要 項

科 目	柔道整復実技 4	学科名	柔道整復	履修年次	3 年次
		教授法	実技	単位数コマ	5 単位 (76 コマ)
教 員	樋口 知行 柳樂 聡治郎	領域	専門	実務経験	あり
教科書	柔道整復学理論編改訂第7版 柔道整復学実技編改訂版第2版 包帯固定学				
参考書	プリント				
成績評価	筆記試験 定期試験 中間試験 小テスト(講義中実施)・出席日数・学習態度等で総合的に評価。卒業見込み判定試験の成績も判定基準とする。				
評価基準	定期試験60点以上で合格、欠席日数が出席日数の1/3を超えた場合は単位不認定とする。身だしなみ、授業態度の悪い者、教員からの指示不履行者は定期試験より減点とする。				
到達目標	認定実技審査合格水準を超える能力を身に付け、実施できる。				
留意点	欠席はたとえ一回であっても貴重な実習機会を失うことになる。安易に休まないこと。				
授業外に必要な学習内容	授業中に配布したプリントの復習。この実技については復習が重要だが、実技内容を一人で復習することはとても難しいため、クラス内で協力して、練習機会を設けること。				
授業内容	柔道整復師として接骨院に勤務した経験をもとに認定実技審査で出題される疾患を適切に判断し、整復及び検査が実施できるようにする。 国家試験必修問題の範囲であるため、必要に合わせて実技以外にも座学を行う。 必修対策用のノートを各自で作成する時間を設けるため、専用のノートやルーズリーフなどを用意すること。 認定実技審査対策として必要な技能を学ぶとともに、臨床に幅広く応用できるようポイントをおさえていく。				

授 業 内 容

日 程	内 容	使用機材等
1	ガイダンス	教科書 パワーポイント プロジェクター
2	鎖骨骨折の整復 上腕骨外科頸外転型骨折の整復 患者の介助、助手への指示、整復操作	教科書 パワーポイント プロジェクター
3	鎖骨骨折の整復 上腕骨外科頸外転型骨折の整復 認定実技審査マニュアルによる実技	教科書 パワーポイント プロジェクター
4	橈骨遠位端部伸展型骨折の整復(牽引直圧法) 肩関節脱臼・コッヘル法による坐位整復法 患者の介助、助手への指示、整復操作	教科書 パワーポイント プロジェクター
5	橈骨遠位端部伸展型骨折の整復(牽引直圧法) 肩関節脱臼・コッヘル法による坐位整復法 認定実技審査マニュアルによる実技	教科書 パワーポイント プロジェクター
6	肩鎖関節上方脱臼(第2度損傷)の整復 肘関節後方脱臼の坐位整復法(第1法) 患者の介助、助手への指示、整復操作	教科書 パワーポイント プロジェクター
7	肩鎖関節上方脱臼(第2度損傷)の整復 肘関節後方脱臼の坐位整復法(第1法) 認定実技審査マニュアルによる実技	教科書 パワーポイント プロジェクター
8	肘内障の整復(第2法) 患者の介助、助手への指示、整復操作	教科書 パワーポイント プロジェクター
9	肘内障の整復(第2法) 認定実技審査マニュアルによる実技	教科書 パワーポイント プロジェクター

10	<p>整復実技練習①</p> <p>① 鎖骨骨折 ② 上腕骨外科頸外転型骨折 ③ 橈骨遠位端部伸展型骨折</p>	<p>教科書 パワーポイント プロジェクター</p>
11	<p>整復実技練習②</p> <p>① 肩関節脱臼 ② 肩鎖関節上方脱臼 ③ 肘関節後方脱臼 ④ 肘内障</p>	<p>教科書 パワーポイント プロジェクター</p>
12	<p>小テスト（「患者の介助」「助手への指示」「整復操作」）</p>	<p>教科書 パワーポイント プロジェクター</p>
13	<p>実技試験（上肢の骨折・脱臼：7項目）</p>	<p>教科書 パワーポイント プロジェクター</p>
14	<p>腱板損傷 ペインフルアークサイン・ドロップアームサイン 上腕二頭筋長頭腱損傷 ヤーガソテスト・スピードテスト ハムストリングス損傷（肉ばなれ） 大腿四頭筋打撲 血管・神経損傷、その他合併症、患者の介助、検査手技・動作</p>	<p>教科書 パワーポイント プロジェクター</p>
15	<p>腱板損傷 ペインフルアークサイン・ドロップアームサイン 上腕二頭筋長頭腱損傷 ヤーガソテスト・スピードテスト 認定実技審査マニュアルによる実技</p>	<p>教科書 パワーポイント プロジェクター</p>
16	<p>ハムストリングス損傷（肉ばなれ） 大腿四頭筋打撲 認定実技審査マニュアルによる実技</p>	<p>教科書 パワーポイント プロジェクター</p>
17	<p>膝関節側副靭帯損傷 膝関節十字靭帯損傷 膝関節半月板損傷 血管・神経損傷、その他合併症、患者の介助、検査手技・動作</p>	<p>教科書 パワーポイント プロジェクター</p>
18	<p>膝関節側副靭帯損傷 膝関節十字靭帯損傷 膝関節半月板損傷 認定実技審査マニュアルによる実技</p>	<p>教科書 パワーポイント プロジェクター</p>
19	<p>下腿三頭筋損傷（肉ばなれ） 足関節外側靭帯損傷 血管・神経損傷、その他合併症、患者の介助、検査手技・動作</p>	<p>教科書 パワーポイント プロジェクター</p>
20	<p>下腿三頭筋損傷（肉ばなれ） 足関節外側靭帯損傷 認定実技審査マニュアルによる実技</p>	<p>教科書 パワーポイント プロジェクター</p>
21	<p>検査法練習①</p> <p>① 腱板損傷 ② 上腕二頭筋長頭腱損傷 ③ 大腿四頭筋打撲 ④ ハムストリングスの肉離れ</p>	<p>教科書 パワーポイント プロジェクター</p>
22	<p>検査法練習②</p> <p>① 膝関節側副靭帯損傷 ② 膝関節十字靭帯損傷 ③ 膝関節半月板損傷 ④ 下腿三頭筋肉離れ ⑤ 足関節外側靭帯損傷</p>	<p>教科書 パワーポイント プロジェクター</p>
23	<p>総合実技練習① 全16項目の整復及び検査法</p>	<p>教科書 パワーポイント プロジェクター</p>
24	<p>総合実技練習② 全16項目の整復及び検査法</p>	<p>教科書 パワーポイント プロジェクター</p>
25	<p>総合実技練習③ 助手を含めた整復練習 全ての整復・検査法を試験のように実施</p>	<p>教科書 パワーポイント プロジェクター</p>
26	<p>総合実技練習④ 助手を含めた整復練習 全ての整復・検査法を試験のように実施</p>	<p>教科書 パワーポイント プロジェクター</p>

27	振り返り・復習	教科書 パワーポイント プロジェクター
28	柔道整復師に必要な知識及び技能① 上肢骨折の復習	教科書 パワーポイント プロジェクター
29	柔道整復師に必要な知識及び技能② 上肢脱臼の復習	教科書 パワーポイント プロジェクター
30	柔道整復師に必要な知識及び技能③ 上肢軟部組織損傷の復習	教科書 パワーポイント プロジェクター
31	柔道整復師に必要な知識及び技能④ 下肢軟部組織損傷の復習	教科書 パワーポイント プロジェクター
32	柔道整復師に必要な知識及び技能⑤ 各種損傷、疾患について①	教科書 パワーポイント プロジェクター
33	柔道整復師に必要な知識及び技能⑥ 各種損傷、疾患について②	教科書 パワーポイント プロジェクター
34	柔道整復師に必要な知識及び技能⑦ 各種損傷、疾患について③	教科書 パワーポイント プロジェクター
35	柔道整復師に必要な知識及び技能⑧ 各種損傷、疾患について④	教科書 パワーポイント プロジェクター
36	柔道整復師に必要な知識及び技能の確認試験	教科書 パワーポイント プロジェクター
37	試験総評および復習	教科書 パワーポイント プロジェクター
38	総まとめ	教科書 パワーポイント プロジェクター
39	ガイダンス①認定実技診査についての詳細と今年度の認定実技	柔道整復学理論書-実技書
40	鎖骨骨折の固定 胸郭の拡大を持続させる	柔道整復学理論書-実技書
41	鎖骨骨折の固定と上腕骨三角筋付着より遠位骨折の固定	柔道整復学理論書-実技書
42	上腕骨三角筋付着より遠位骨折の固定ミッドドルフの三角副子	柔道整復学理論書-実技書
43	コーレス(Colles)骨折固定 クラメルと背側の厚紙副子固定	柔道整復学理論書-実技書
44	コーレス(Colles)骨折固定	柔道整復学理論書-実技書
45	第5中手骨骨折固定 アルフェンスと背側プライトン固定	柔道整復学理論書-実技書
46	下腿骨骨幹部骨折固定 クラメルと前面の厚紙副子固定	柔道整復学理論書-実技書
47	肋骨骨折固定 晒と厚紙副子固定	柔道整復学理論書-実技書
48	肩鎖関節脱臼固定 フェルトとロバートジョーンズ絆創膏固定	柔道整復学理論書-実技書
49	肩鎖関節脱臼固定	柔道整復学理論書-実技書

50	肩関節前方脱臼固定 肩の麦穂帯と厚紙副子固定	柔道整復学理論書-実技書
51	肘関節後方脱臼固定	柔道整復学理論書-実技書
52	手pip関節背側脱臼固定 アルフェンス固定	柔道整復学理論書-実技書
53	クラメールと背屈防止副子固定	柔道整復学理論書-実技書
54	膝関節内側側副靭帯損傷 Xサポートテープ 固定実技①	柔道整復学理論書-実技書
55	膝関節内側側副靭帯損傷 Xサポートテープ 固定実技②	柔道整復学理論書-実技書
56	定期試験	柔道整復学理論書-実技書
57	足関節外側靭帯損傷局所副子固定	柔道整復学理論書-実技書
58	足関節テーピング バasketウィーブ固定	柔道整復学理論書-実技書
59	足関節テーピングヒールロックとフィギアエイト固定	柔道整復学理論書-実技書
60	全ての固定を試験のように実施	柔道整復学理論書-実技書
61	全ての固定を試験のように実施	柔道整復学理論書-実技書
62	鎖骨の転位や肩鎖関節脱臼との鑑別	柔道整復学理論書-実技書
63	外科頸と肩脱臼との鑑別	柔道整復学理論書-実技書
64	肘脱臼と骨折の鑑別	柔道整復学理論書-実技書
65	前腕骨骨折と転位 特徴	柔道整復学理論書-実技書
66	絞扼性神経障害を合併する外傷	柔道整復学理論書-実技書
67	柔道整復師に必要な技能と知識法規1	柔道整復学理論書-実技書
68	柔道整復師に必要な技能と知識法規2	柔道整復学理論書-実技書
69	柔道整復師に必要な技能と知識法規3	柔道整復学理論書-実技書
70	柔道整復師に必要な技能と知識法規4	柔道整復学理論書-実技書
71	柔道整復師に必要な技能と知識法規5	柔道整復学理論書-実技書
72	職業倫理と個人情報保護1	柔道整復学理論書-実技書

73	職業倫理と個人情報保護2	柔道整復学理論書-実技書
74	職業倫理と個人情報保護3	柔道整復学理論書-実技書
75	職業倫理と個人情報保護4	柔道整復学理論書-実技書
76	総まとめ	柔道整復学理論書-実技書

〈2026年度〉

授業要項

科目	臨床実習1	学科名	柔道整復	履修年次	1年次
		教授法	実習	単位数コマ	1単位(23コマ)
教員	樋口知行 村山晶子 柳楽聡治郎 宮前勤 宮坂卓治 古川清裕 佐藤史人	領域	専門	実務経験	有
教科書	適宜プリントを配布				
参考書	適宜プリントを配布				
成績評価	デイリーノート、出席状況、実力試験等を総合する。				
評価基準	100%の出席および実力試験60%の成績をもって合格とする。欠席分は別途補習にて補填を行う。				
到達目標	接骨院で柔道整復師として機能していることに実地に触れ、柔道整復師の職域を知る。加えて将来、医療従事者になることの大きな動機を得る。				
留意点	実習指導者の指示に従うこと。利用者に対して人間性を尊重することを忘れず、誠意を持って対応し、馴れ馴れしい態度や言葉遣いは避けること。利用者に関する情報については秘密を守り、一切口外しないこと。施設内では慎重に行動し、利用者とのトラブルや未熟な対処による事故を防止するため、十分安全に心掛けること。				
授業外に必要な学習内容	社会保障制度について自習しておくこと。 必要に応じて、実技練習をすること。				
授業内容	鍼灸師、柔道整復師として接骨院、鍼灸接骨院での勤務経験を踏まえ、本科目では付属臨床施設での臨床実習を行うことで、具体的な環境と対象に対する知識や技術の適用を教授する。また医療専門職従事者としての態度もこの実習で養う。				

授業内容

日程	内 容	使用機材等
1	ホスピタリティ研修	
2	救急法 1	
3	救急法 2	
4	救急法 3	
5	救急法 4	
6	救急法 5	
7	救急法 6	
8	救急法 7	
9	救急法 8	
10	ガイダンス	
11	臨床実習 1	
12	臨床実習 2	

13	臨床実習 3	
14	臨床実習 4	
15	臨床実習 5	
16	臨床実習 6	
17	臨床実習 7	
18	臨床実習 8	
19	臨床実習 9	
20	臨床実習 10	
21	臨床実習 11	
22	臨床実習 12	
23	まとめ	

〈2026年度〉

授業要項

科目	臨床実習2	学科名	柔道整復	履修年次	2年次
		教授法	実習	単位数コマ	1単位(23コマ)
教員	樋口知行 村山晶子 柳楽聡治郎 宮前勤 宮坂卓治 古川清裕 佐藤史人	領域	専門	実務経験	有
教科書	適宜プリントを配布				
参考書	適宜プリントを配布				
成績評価	デイリーノート、出席状況、実力試験等を総合する。				
評価基準	100%の出席および実力試験60%の成績をもって合格とする。欠席分は別途補習にて補填を行う。				
到達目標	接骨院で柔道整復師として機能していることに実地に触れ、柔道整復師の職域を知る。加えて将来、医療従事者になることの大きな動機を得る。				
留意点	実習指導者の指示に従うこと。利用者に対して人間性を尊重することを忘れず、誠意を持って対応し、馴れ馴れしい態度や言葉遣いは避けること。利用者に関する情報については秘密を守り、一切口外しないこと。施設内では慎重に行動し、利用者とのトラブルや未熟な対処による事故を防止するため、十分安全に心掛けること。				
授業外に必要な学習内容	社会保障制度について自習しておくこと。 必要に応じて、実技練習をすること。				
授業内容	鍼灸師、柔道整復師として接骨院、鍼灸接骨院での勤務経験を踏まえ、本科目では付属臨床施設での臨床実習を行うことで、具体的な環境と対象に対する知識や技術の適用を教授する。また医療専門職従事者としての態度もこの実習で養う。また、状況に応じて外部での実習を行うこともある。				

授業内容

日程	内容	使用機材等
1	ガイダンス	
2	臨床実習 1	
3	臨床実習 2	
4	臨床実習 3	
5	臨床実習 4	
6	臨床実習 5	
7	臨床実習 6	
8	臨床実習 7	
9	臨床実習 8	
10	臨床実習 9	
11	臨床実習 10	
12	臨床実習 11	

13	臨床実習 1 2	
14	臨床実習 1 3	
15	臨床実習 1 4	
16	臨床実習 1 5	
17	臨床実習 1 6	
18	臨床実習 1 7	
19	臨床実習 1 8	
20	臨床実習 1 9	
21	臨床実習 2 0	
22	実力試験	
23	まとめ	

〈2026年度〉

授業要項

科目	臨床実習3	学科名	柔道整復	履修年次	3年次
		教授法	実習	単位数コマ	2単位(45コマ)
教員	樋口知行 村山晶子 柳楽聡治郎 宮前勤 宮坂卓治 古川清裕 佐藤史人	領域	専門	実務経験	有
教科書	適宜プリントを配布				
参考書	適宜プリントを配布				
成績評価	最終評価表、デイリーノート、出席状況を総合する。				
評価基準	100%の出席およびを最終評価表、デイリーノートの提出をもって合格とする。欠席分は付属臨床施設実習で補填する。				
到達目標	柔道整復師として臨床における実践的能力および保険の仕組みに関する知識を習得し、患者との適切な対応を望む。また、施術者としての責任と自覚を学ぶ。				
留意点	実習指導者の指示に従うこと。利用者に対して人間性を尊重することを忘れず、誠意を持って対応し、馴れ馴れしい態度や言葉遣いは避けること。利用者に関する情報については秘密を守り、一切口外しないこと。施設内では慎重に行動し、利用者とのトラブルや未熟な対処による事故を防止するため十分に安全に心掛けること。				
授業外に必要な学習内容	社会保障制度について自習しておくこと。 必要に応じて、実技練習をすること。				
授業内容	原則、外部臨床施設(接骨院、整形外科)での臨床実習を行う。学校協会ガイドラインに準拠する。				

授業内容

日程	内 容	使用機材等
1	臨床実習	
2	臨床実習	
3	臨床実習	
4	臨床実習	
5	臨床実習	
6	臨床実習	
7	臨床実習	
8	臨床実習	
9	臨床実習	
10	臨床実習	
11	臨床実習	
12	臨床実習	
13	臨床実習	

14	臨床実習	
15	臨床実習	
16	臨床実習	
17	臨床実習	
18	臨床実習	
19	臨床実習	
20	臨床実習	
21	臨床実習	
22	臨床実習	
23	臨床実習	
24	臨床実習	
25	臨床実習	
26	臨床実習	
27	臨床実習	
28	臨床実習	
29	臨床実習	
30	臨床実習	
31	臨床実習	
32	臨床実習	
33	臨床実習	
34	臨床実習	
35	臨床実習	
36	臨床実習	
37	臨床実習	
38	臨床実習	
39	臨床実習	
40	臨床実習	
41	臨床実習	

42	臨床実習	
43	臨床実習	
44	臨床実習	
45	臨床実習	